

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

農 薬 抄 録

一般名 シメコナゾール

[殺 菌 剤]

(作 成 年 月 日) 平成12年11月9日
平成13年4月20日改訂
平成13年11月22日改訂
平成14年7月24日改訂
平成15年4月10日改訂
平成18年12月21日改訂
平成20年7月14日改訂
平成21年6月29日改訂
平成22年12月6日改訂
平成24年2月14日改訂
平成26年7月2日改訂

(作 成 会 社 名) 三井化学アグロ株式会社
(作成責任者・所属)

(会社名)
連絡先 三井化学アグロ株式会社

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

目 次

	頁
I. 開発の経緯	1
II. 物理的・化学的性状	3
III. 生物活性	15
IV. 適用及び使用上の注意	17
V. 残留性及び水質汚濁性	25
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	62
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等	89
VIII. 毒性	90
1. 原 体	
(1) 急性毒性	98
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	103
(3) 皮膚感作性	106
(4) 急性神経毒性	108
(5) 急性遅発性神経毒性	109
(6) 90日間反復経口投与毒性	110
(7) 21日間反復経皮投与毒性	123
(8) 90日間反復吸入毒性	124
(9) 反復経口投与神経毒性	125
(10) 28日間反復投与遅発性神経毒性	126
(11) 1年間反復経口投与毒性及び発がん性	127
(12) 繁殖毒性及び催奇形性	152
(13) 変異原性	165
(14) 生体機能影響	177
(15) その他	185
2. 原体混在物及び代謝物	
(1) 急性毒性	205
(2) 変異原性	216
3. 製 剤	
(1) 急性毒性	241
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	253
(3) 皮膚感作性	269
IX. 動植物及び土壌等における代謝分解	277
[付] シメコナゾールの開発年表	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

1. 開発の経緯

1. 起源及び発見の経緯

エルゴステロール生合成阻害剤（EBI 剤）は、菌類の細胞膜成分であるエルゴステロールの生合成を阻害する薬剤である。その中でも、ラノステロールの 14 位脱メチル化を阻害するアゾール系薬剤はデメチラーゼインヒビター剤（DMI 剤）と称される。

EBI 剤は一般的に、スペクトラムが広く、病害防除活性が高く、また、耐性の発達が緩やかである、などの特徴を有し、農業用殺菌剤として欧米及び日本で数多く開発されてきた。EBI 剤の農業用殺菌剤としての開発は、1970 年代に特に盛んになり、日本でも 1983 年に DMI 剤の 1 つであるトリアジメホンが上市されて以来、いくつかの同系薬剤が上市されている。

欧米における EBI 剤の多くは麦類の病害を主ターゲットに開発されており、うどんこ病、さび病、斑点病、ふ枯病、眼紋病あるいは種子病害などに使用されている。

日本国内では、麦類よりも果樹の黒星病、赤星病及びうどんこ病、野菜のうどんこ病ならびに稲の種子病害を対象に開発されてきた。

シメコナゾールの開発研究は、1987 年から開始された。当時すでにいくつかもの EBI 剤が開発されていたため、それら既存 EBI 剤にはない特徴を示すことを開発研究の目標とした。

すなわち、稲場面にも使用でき、浸透性及び移行性が高い化合物で、水田の水面施用や種子処理ができ、作物に対する安全性の高い化合物を選抜した。その中から、稲紋枯病に水面施用で卓効を示し、種々の作物のうどんこ病やりんご黒星病に茎葉散布で高い効果を示すだけでなく、種子処理で麦類のうどんこ病や稲ばか苗病にも高い効果を示し、かつ作物に対する安全性の高い化合物としてシメコナゾール（コード番号：F-155）を選抜した。

2. 開発の経緯

こうして選抜したシメコナゾールについて、社内で圃場レベルの試験を実施し、実用性の検討を行った。その結果、① 粒剤の水面施用で稲紋枯病に対して卓効を示し、かつ処理適期が広いこと、② 水和剤の茎葉散布でりんご黒星病、なし赤星病、各種作物のうどんこ病、ばら黒星病など、果樹、野菜、花きの諸病害に高い効果を示すこと、③ 灌注処理で芝葉腐病等の土壌病害に高い効果を示すこと、④ 種子処理で小麦裸黒穂病などの種子病害に卓効を示すこと、かつ、⑤ 作物に対して高い安全性を有することを見出した。

1997 年より、日本植物防疫協会の委託試験を通して薬効と薬害に関する評価を行った結果、次の病害に対して安定した高い効果を示し、薬害もないことが確認された。

すなわち、1.5%粒剤の水面施用で稲紋枯病、20%水和剤の茎葉散布でりんご、なしの黒星病、赤星病、うどんこ病、もも灰星病、灌注処理で芝葉腐病等である。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

これらの結果に基づき、平成13年にパッチコロシ水和剤(20%)、平成14年にモンガリット粒剤(1.5%)、サンリット水和剤(20%)が登録された。

以後、スペクトラムの広い特徴を生かして、上記製品の適用病害を広げるとともに、適用場面にあわせた製剤であるサンリットDF(50%)が平成17年に、モンガリット1キロ粒剤(4.5%)が平成18年に登録された。また、他剤と併用した時に相乗効果を示すという特徴を生かした配合剤として、平成14年にテーク水和剤(シメコナゾール2.4%、マンゼブ65.0%)、モンガリットダイアジノン粒剤(ダイアジノン3.0%、シメコナゾール1.5%)、サンリットカルホス粉剤(イソキサチオン2.0%、シメコナゾール0.40%)、平成16年にイモチミン粒剤(シメコナゾール1.5%、メトミノストロピン4.0%)も登録された。作物に対する安全性は、上述した一次的な薬害以外にも、本剤を施用した「稲わら」から調製した堆肥を用いた二次薬害、その他周辺作物に対する薬害、混用薬害など広い範囲の検討を行い、安全性を確認した。

一方、動物に対する各種の毒性試験、動植物及び土壌等における代謝試験、環境中での動態試験等を行い、本剤の安全性を確認した。

なお、本剤はJMPRで未評価であり、米国、豪州、EU、カナダ、ニュージーランドの5ヶ国・地域で登録がなく、ADI及びARfDの設定もない。

3. 諸外国での開発状況

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称及び化学構造

1) 一般名

シメコナゾール simeconazole (ISO名)

2) 別名

商品名：サンリット水和剤、パッチコロシ水和剤、モンガリット粒剤、
モンガリット1キロ粒剤

試験名：SF-9607、SF-9701、F-155

3) 化学名

(*RS*)-2-(4-フルオロフェニル)-1-(1*H*-1,2,4-トリアゾール-1-イル)-3-トリメチルシリルプロパン-2-オール (MAFF名)

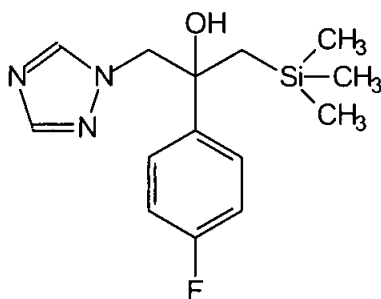
(*RS*)-2-(4-fluorophenyl)-1-(1*H*-1,2,4-triazol-1-yl)-3-(trimethylsilyl)propan-2-ol

(*RS*)-2-(4-フルオロフェニル)-1-(1*H*-1,2,4-トリアゾール-1-イル)-3-(トリメチルシリル)プロパン-2-オール (IUPAC名)

α -(4-fluorophenyl)- α -[(trimethylsilyl)methyl]-1*H*-1,2,4-triazole-1-ethanol (CA名)

注) 原体中のRS比は1:1である。

4) 構造式



5) 分子式：C₁₄H₂₀FN₃OSi

6) 分子量：293.41

7) CAS. No. : 149508-90-7

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目		測定値 (測定条件)	測定方法等	
色調・形状・臭気		白色結晶性固体、無臭	官能法/HLS (1999年 GLP)	
密度		1.20g/cm ³ (20°C)	OECD 109 比重びん法 /HLS (1999年 GLP)	
融点		118.5 ~ 120.5°C	OECD 102 マルブロッ法 /HLS (1999年 GLP)	
沸点		測定不能 260°C以上の温度で沸点にいたらず分解	OECD 103 Simoloboff 法の変法 /HLS (1999年 GLP)	
蒸気圧		5.4×10 ⁻⁵ Pa (25°C)	OECD 104 蒸気圧天秤法 /HLS (1999年 GLP)	
溶解度	水	57.5mg/L (20±0.5°C)	OECD 105 フラスコ法 /HLS (1999年 GLP)	
	有機溶媒	ヘキサン	0.755g/L (20°C)	OECD 105 フラスコ法 /HLS (1999年 GLP)
		ヘプタン	0.680g/L (20°C)	
		キロリン	26.9g/L (20°C)	
		トルエン	40.4g/L (20°C)	
		ジクロロメタン	232g/L (20°C)	
		アセトン	219g/L (20°C)	
		メタノール	259g/L (20°C)	
		エタノール	161g/L (20°C)	
酢酸エチル	153g/L (20°C)			
解離定数		pH2~12 では測定不能	OECD 112 分光光度法及び滴定法 /HLS (1999年 GLP)	
分配係数 (n-オクタノール/水)		log Pow = 3.2 (25°C)	OECD 117 HPLC 法 /HLS (1999年 GLP)	
土壌吸着係数		K _d 3.19~28.4 K _{oc} 219~2330 (25±2°C)	9 農産第 8147 号 OECD 106 / (株) 化学分析コンサルタント (1999年)	
安定性	熱	室温で安定、150°C以下では分解せず	OECD 113 示差熱分析法 /HLS (1999年 GLP)	
	加水分解性	半減期 (25°C) 22.9日 (pH4.0) 分解せず (pH7.0) 分解せず (pH9.0)	9 農産第 5089 号 OECD 111 /HLS (1999年 GLP)	
	水中光分解性	滅菌蒸留水	分解せず (25±2°C, 99.5w/m ² , 300~700nm)	9 農産第 5089 号 /三共 (株) (2000年 GLP)
		自然水	7.2日 (25±2°C, 99.5w/m ² , 300~700nm)	
スペクトル		UV, IR, MS, ¹ H-NMR	OECD 101 /HLS (1999年 GLP)	
		¹³ C-NMR	9 農産第 8147 号 /三共 (株) (2000年 GLP)	
生物濃縮性		BCF (14日間) 7.3 (0.25µg/L)	/三共 (株) (1998年)	

HLS:Huntingdon Life Sciences Ltd.

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

① UV/可視スペクトル

測定条件：

測定装置；Unicam 8755 UV-Visible Spectrophotometer

セル長； 1cm

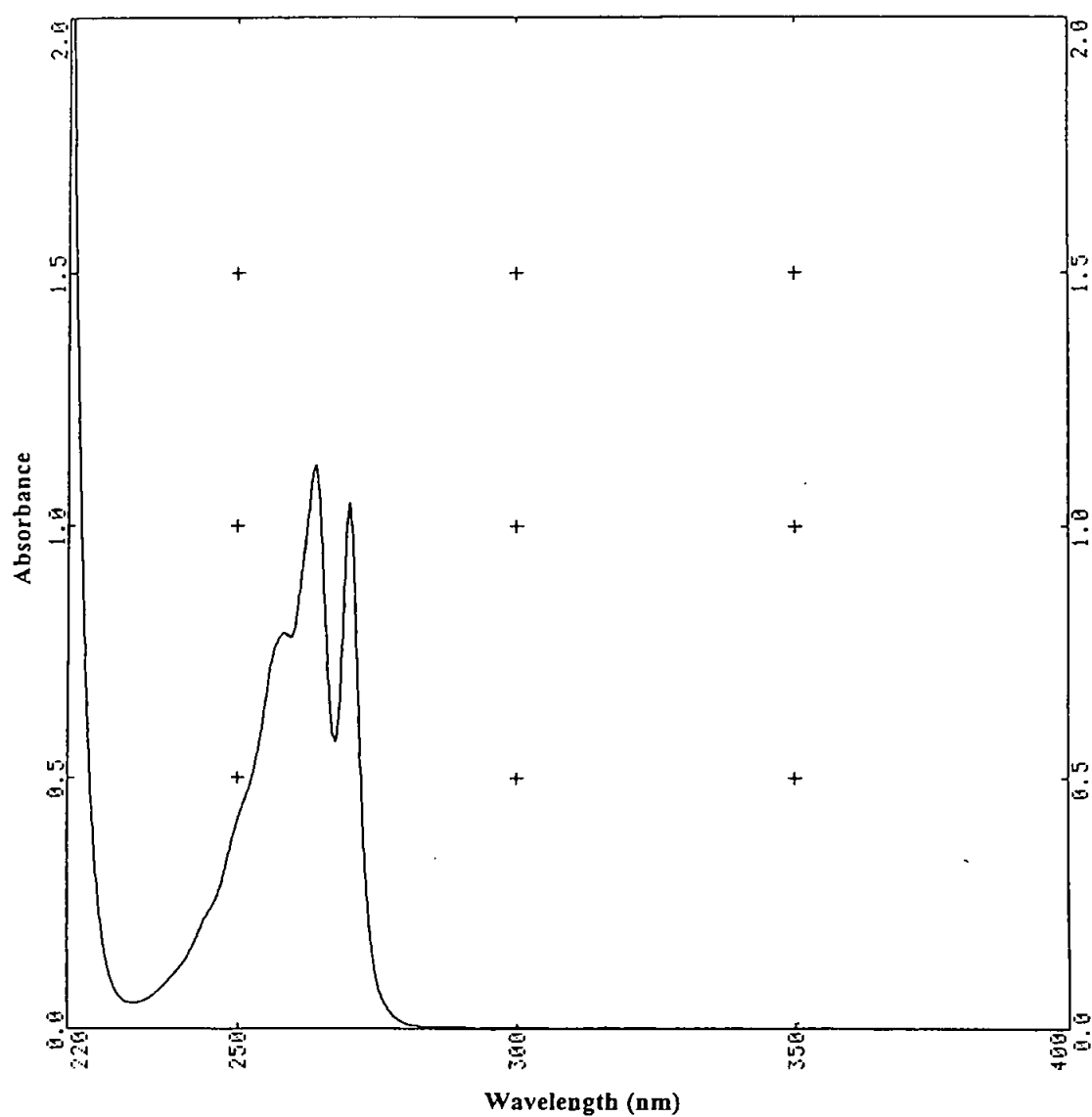
波長範囲；220～800nm

濃度； 520.2mg/L (中性溶液)

501.9mg/L (酸性・アルカリ性溶液)

1) 精製水：メタノール (1 : 1 v/v) pH = 7.98

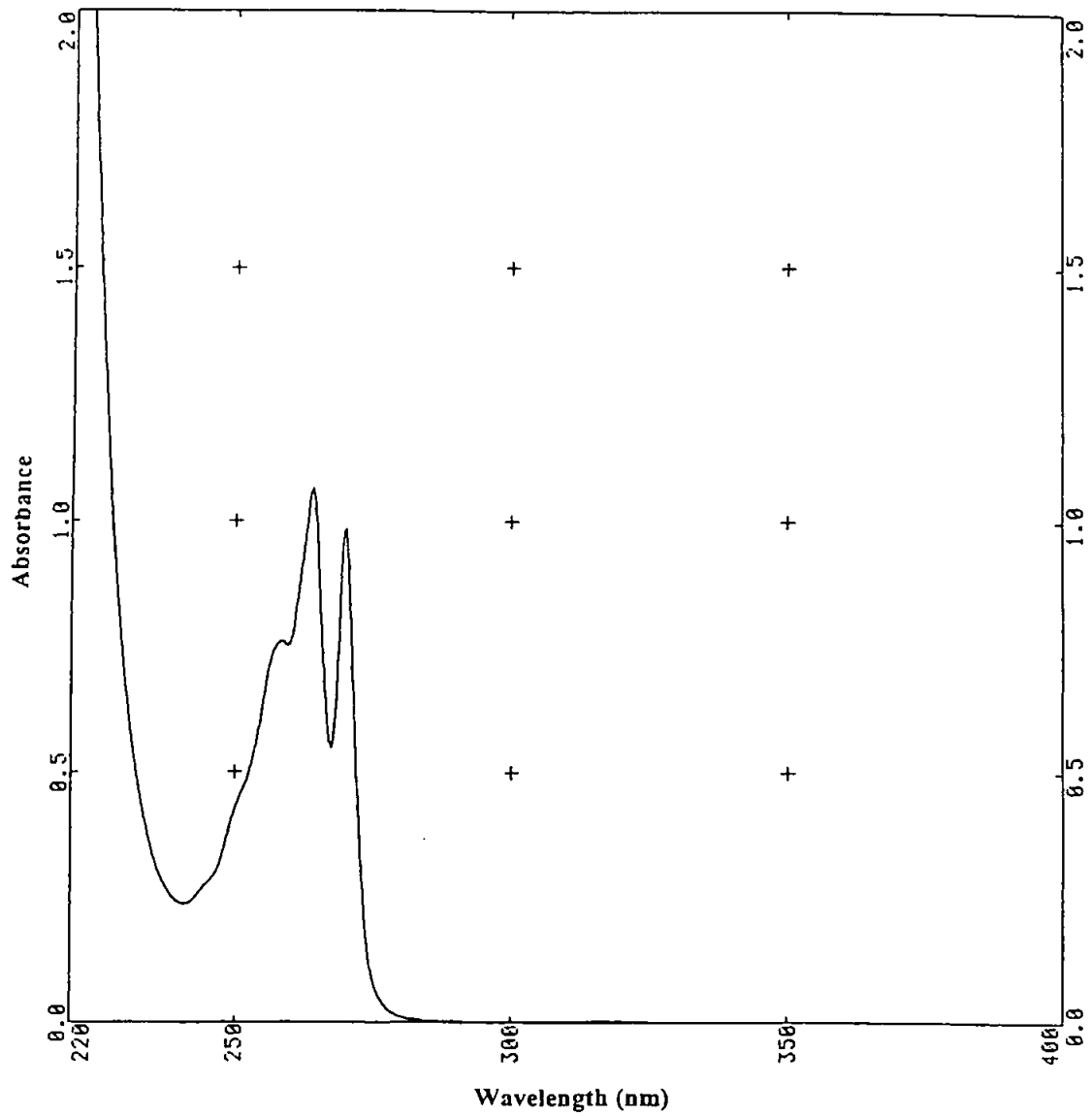
[極大吸収波長；264nm、モル吸光係数(ϵ)；631dm³/mol/cm]



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

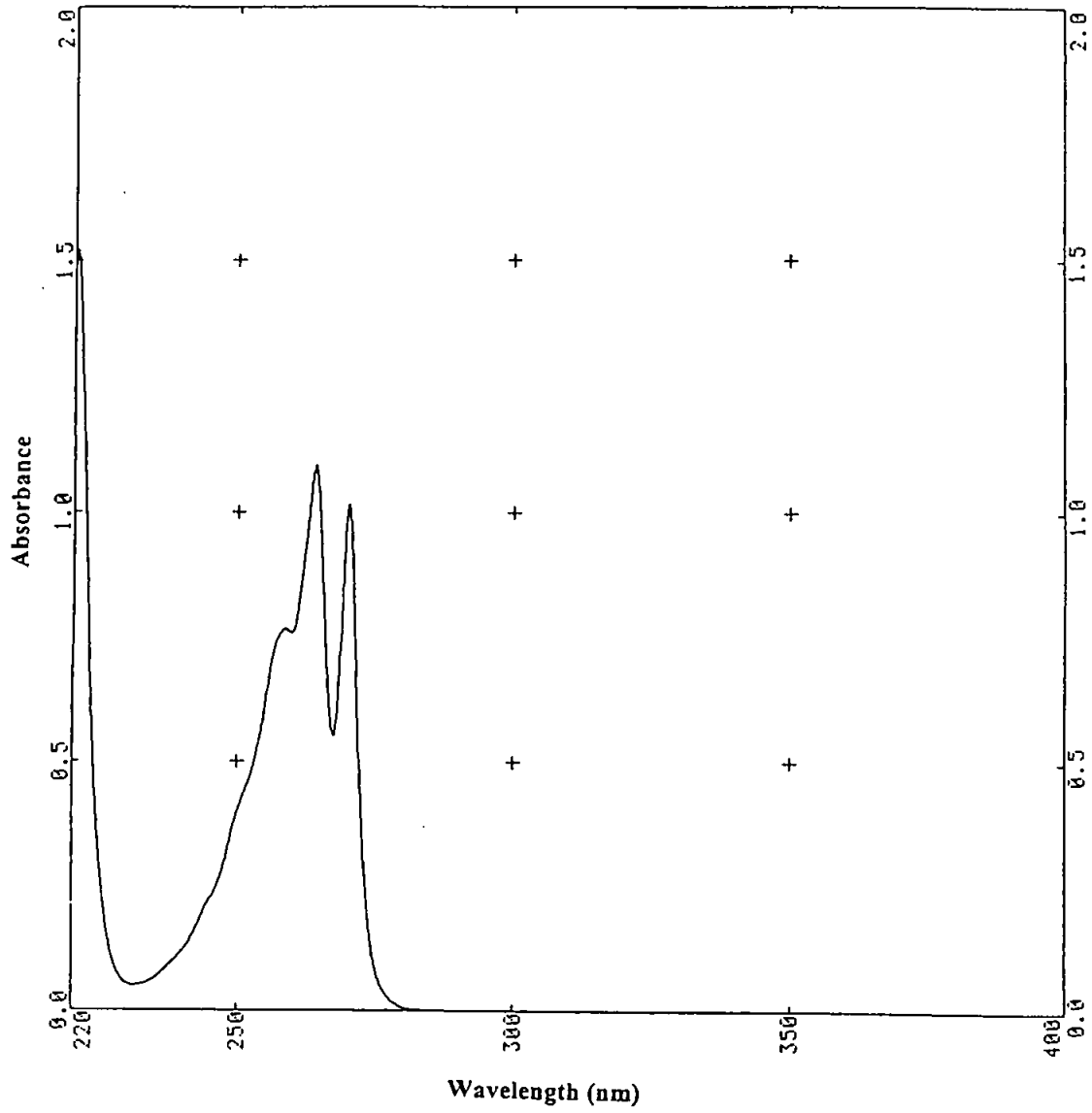
2) 0.2M 塩酸水溶液 : メタノール (1 : 1 v/v) pH = 1.19

[極大吸収波長 ; 264nm、モル吸光係数 (ϵ) ; 621dm³/mol/cm]



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- 3) 0.2M 水酸化ナトリウム水溶液：メタノール（1：1 v/v） pH = 13.14
[極大吸収波長；264nm、モル吸光係数 (ϵ)；638dm³/mol/cm]



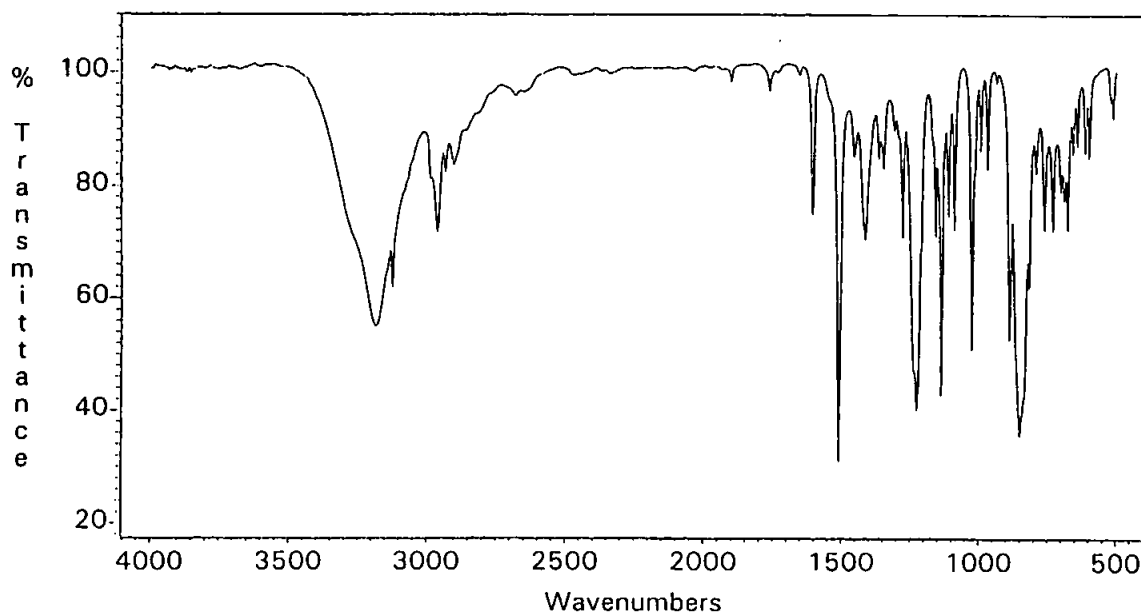
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

② 赤外スペクトル

測定条件：KBr 法により測定した。

測定装置；Mattson Galaxy 3020 Fourier Transform - Infrared (FT-IR) Spectrometer

波長範囲；4000~500 cm^{-1}



特徴的な吸収帯、所見及びその帰属

スキャン頻度 (cm^{-1})	所見	帰属
3500 - 3000	強い広域帯	O - H 伸縮
3000 - 2800	弱い/中程度の ν - C の領域	C - H 伸縮 (アリル及びアリル)
1650 - 1450	中程度/強い ν - C の領域	C - C 伸縮 (アリル) C = N 伸縮
1450 - 1050	各種強度の鋭角な ν - C の領域	C - H 変形 (アリル) C - H 変形 (アリル、平面) O - H 変形 C - F 伸縮、C - N 伸縮、C - O 伸縮 Si - CH ₃ 変形
1050 以下	各種強度の鋭角な ν - C の領域	C - H 骨格振動 C - H 変形 (アリル、非平面) Si - C 伸縮 Si - CH ₃ 骨格振動

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

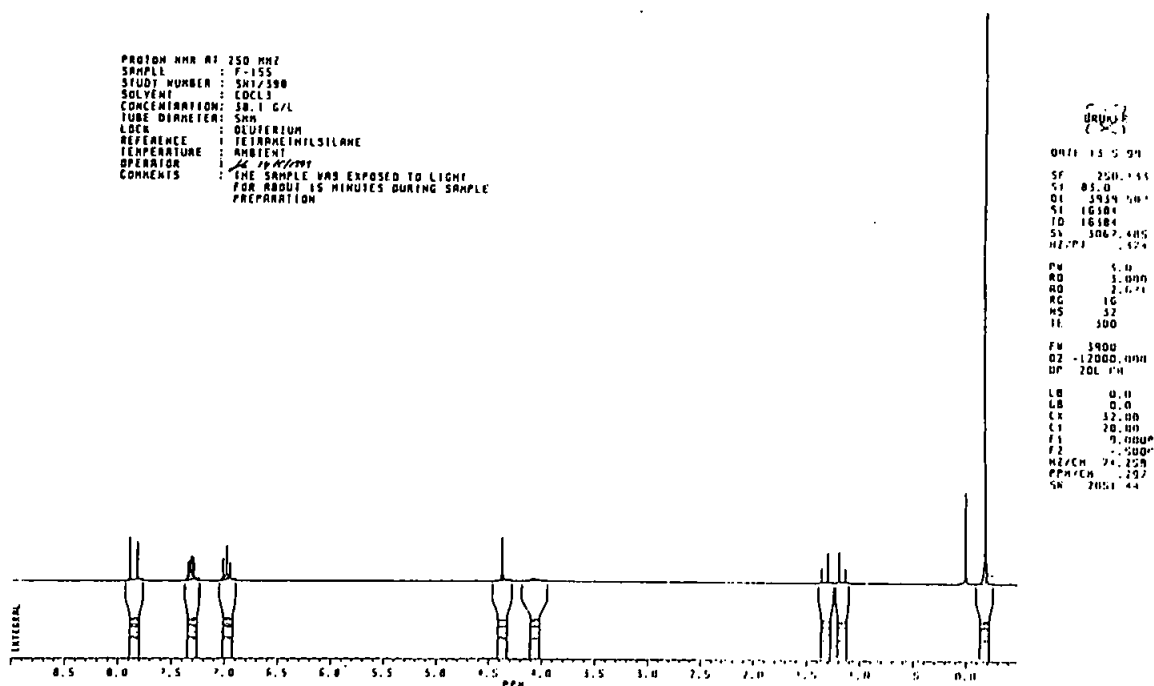
③ ¹H-NMR スペクトル

測定条件：

測定装置；Bruker AM250 NMR Spectrometer

溶媒； CDCl₃

基準物質；TMS



スペクトルの帰属及び構造

化学シフト (ppm)	帰属	構造
7.88, 7.81	H ¹ 及び H ²	
7.30, 6.97	ArH	
4.39, 4.33	H ^X 及び H ^Y	
4.06	OH	
1.32, 1.16	H ^A 及び H ^B	
-0.19	Si (CH ₃) ₃	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

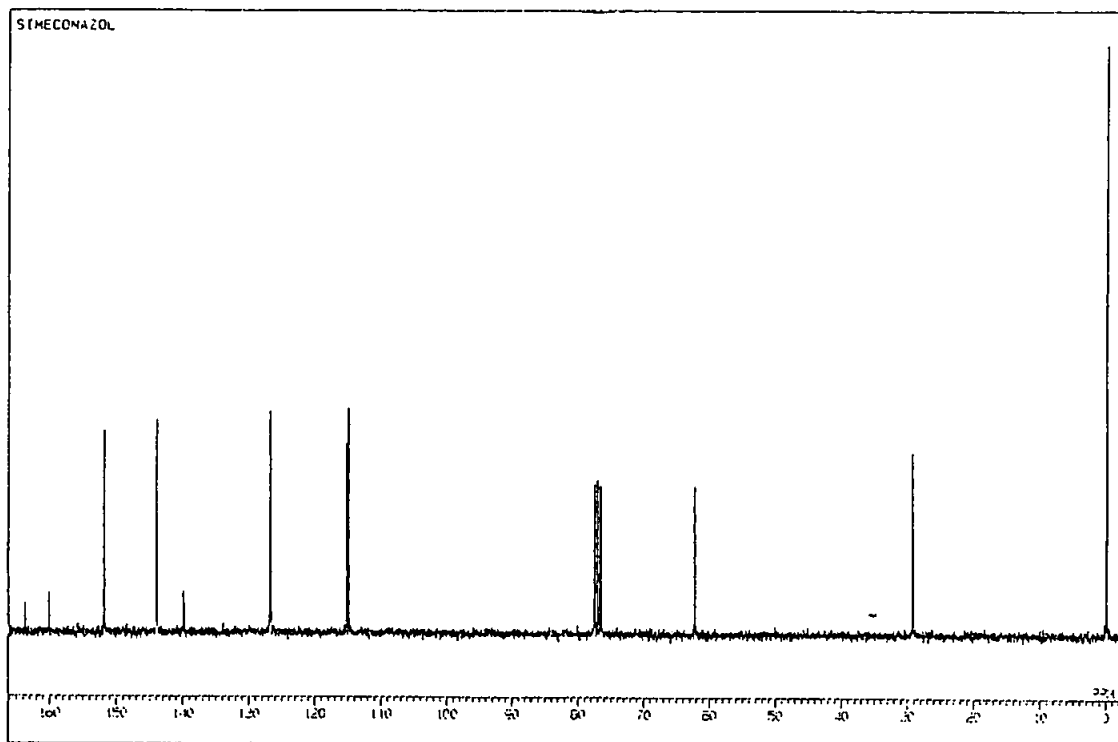
④ ^{13}C -NMR スペクトル

測定条件：

測定装置；日本電子（株）GX-270

溶媒； CDCl_3

基準物質；TMS



*8/1/00 Link: Kiyas
8/1/00 Ryo Saito*

スペクトルの帰属及び構造

化学シフト (ppm)	帰属	構造
161.85	C-12	
151.84	C-8	
143.90	C-7	
139.85	C-9	
126.78	C-10, C-14	
115.05	C-11, C-13	
76.53	C-5	
62.20	C-6	
29.26	C-4	
-0.10	C-1, C-2, C-3	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

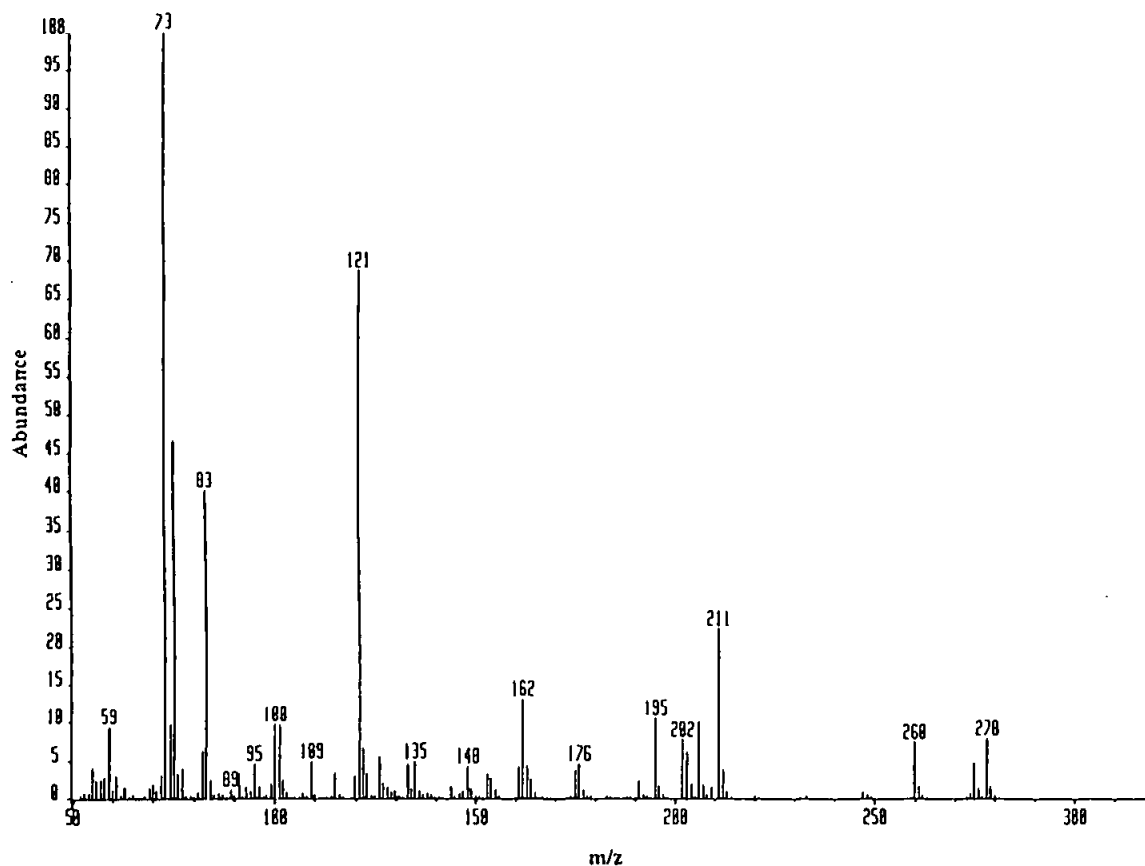
⑤ MS スペクトル

測定条件：GC-MS 法により測定した。

測定装置；ガスクロマトグラフ - Hewlett Packard 5890 Gas Chromatograph

質量分析計 - VG Analytical 7070E Mass Spectrometer

イオン化法 - EI

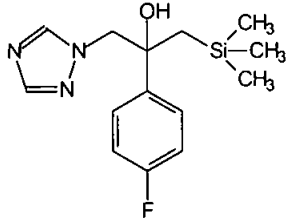


主なピーク及び帰属

ピーク (m/z)	帰属
278	親化合物から CH ₃ の欠失
275	親化合物から H ₂ O の欠失
260	m/z=278 フラグメントから H ₂ O の欠失
211	親化合物から C ₃ H ₄ N ₃ の欠失
121	m/z=211 フラグメントから (CH ₃) ₂ Si=CH ₂ 及び H ₂ O の欠失
83	(CH ₃) ₃ Si フラグメント
73	C ₃ H ₄ N ₃ (+H) フラグメント

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量(%)	
	一般名 (略称)	化学名				規格値	通常値又はレンジ
有効成分	シメコナゾール	(RS)-2-(4-フルオロフェニル)-1-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イル)-3-トリメチルシリルプロパン-2-オール		$C_{14}H_{20}FN_3OSi$	293.41	95.0%以上	97.35-99.42%
原体 混 在 物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

区分	名 称		構 造 式	分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名 (略称)	化学名				規格値	通常値又はレンジ
原 体 混 在 物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

4. 製剤の組成

1) 単剤

① 20%水和剤

シメコナゾール原体	20.0%
鋳物質微粉・界面活性剤等	80.0%

② 4.5%粒剤

シメコナゾール原体	4.5%
鋳物質微粉等	95.5%

③ 1.5%粒剤

シメコナゾール原体	1.5%
鋳物質微粉等	98.5%

2) 混合剤

① シメコナゾール・マンゼブ水和剤

シメコナゾール原体	2.4%
マンゼブ原体	65.0%
鋳物質微粉、界面活性剤等	32.6%

② シメコナゾール・メトミノストロピン粒剤

シメコナゾール原体	1.5%
メトミノストロピン原体	4.0%
鋳物質微粉等	94.5%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

III. 生物活性

1. 活性の範囲

シメコナゾールの抗菌スペクトラムは下表に示す通りであり、子囊菌類、担子菌類及び不完全菌類の多くに抗菌活性を示す。下表は、PDA培地上における50%菌糸生育阻害濃度(ppm)を示す。

病原菌	病害	I C ₅₀ (ppm)
<i>Alternaria alternata</i> f. sp. <i>mali</i>	リンゴ斑点落葉病	4.33
<i>Alternaria alternata</i>	ナシ黒斑病	20.4
<i>Aspergillus nidulans</i>	ニカラガ茶米病	1.00
<i>Botrytis cinerea</i>	灰色かび病	0.24
<i>Ceratobasidium gramineum</i>	オオムギ株腐病	0.05
<i>Ceratobasidium setariae</i>	イネ褐色菌核病	0.36
<i>Cochliobolus miyabeanus</i>	イネごま葉枯病	1.36
<i>Cochliobolus sativus</i>	コムギ斑点病	1.27
<i>Corticium rolfsii</i>	白絹病	0.53
<i>Curvularia intermedia</i>	イネ褐色米病	0.39
<i>Diaporthe citri</i>	カンキツ黒点病	1.53
<i>Fusarium culmorum</i>	コムギ赤かび病	2.75
<i>Fusarium oxysporum</i>	キュウリつる割病	4.35
<i>Gaeumannomyces graminis</i>	コムギ立枯病	0.56
<i>Gibberella zeae</i>	コムギ赤かび病	2.60
<i>Gibberella fujikuroi</i>	イネばか苗病	0.21
<i>Glomerella cingulata</i>	リンゴ炭疽病	0.72
<i>Helicobasidium mompa</i>	リンゴ紫紋羽病	1.25
<i>Helminthosporium maydis</i>	トウモロコシごま葉枯病	0.27
<i>Magnaporthe salvinii</i>	イネ小粒菌核病	0.37
<i>Micronectriella nivalis</i>	コムギ紅色雪腐病	5.18
<i>Monilinia fructicola</i>	モモ灰星病	0.10
<i>Monilinia mali</i>	リンゴモニリア病	<0.3
<i>Mycosphaerella melonis</i>	ウリ類つる枯病	0.41
<i>Pseudocercospora herpotrichoides</i>	コムギ眼紋病	0.26
<i>Pseudocochliobolus lunatus</i>	イネ褐色米病	1.60
<i>Pyrenophora avenae</i>	エンバク葉枯病	1.03
<i>Pyrenophora graminea</i>	オオムギ斑葉病	0.78
<i>Magnaporthe grisea</i>	イネいもち病	1.30
<i>Rosellinia necatrix</i>	リンゴ白紋羽病	7.88
<i>Sclerotium fumigatum</i>	イネ灰色菌核病	0.09
<i>Thanatephorus cucumeris</i>	イネ紋枯病	0.03
<i>Thanatephorus cucumeris</i>	イネ褐色紋枯病	0.27
<i>Ustilago maydis</i>	トウモロコシ黒穂病	0.16
<i>Valsa ceratosperma</i>	リンゴ腐らん病	24.1
<i>Venturia inaequalis</i>	リンゴ黒星病	0.25
<i>Verticillium dahliae</i>	半身萎凋病	0.41
<i>Waitea circinata</i>	イネ赤色菌核病	0.08
<i>Zygothia jamaicensis</i>	リンゴすす点病	0.45

卵菌類や細菌には活性を示さない。

Thanatephorus cucumeris (イネ紋枯病) に対する R : S の生物活性は 40 : 1 である。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 作用機構

シメコナゾールの作用機構について、2種の酵母を用い、*in vitro*の系で酵素阻害活性を調べた結果、DMI剤と同様に菌類のエルゴステロール生合成系の中で、ラノステロールのC14位脱メチル化を阻害することを確認した。

3. 作用特性と防除上の利点等

シメコナゾールの特徴は、活性が高く、スペクトラムが広く、浸透移行性が高く、作物に対する安全性が高いことである。そのため、既存のEBI剤では使用できなかった水田の水面施用で稲紋枯病に卓効を示す。本病に対しては、委託試験を含む多くの圃場試験でその速効性と残効性が確認され、処理適期幅が広いことが明らかになっている。また、そのスペクトラムの広さから穂枯れ病に対する効果や、仕上げ剤としての使用も期待される。

一方、本剤は他のEBI剤と同様、茎葉散布で果樹、野菜、花き等の病害にも高い効果を示すが、この場面では、他の薬剤と併用すると相乗効果を示すことが確認されており、大きな特徴である。現在この特徴を生かした配合剤も開発している。

更に、例えば麦類の種子処理の場合、浸透性が高いために種子深在性の裸黒穂病にも卓効を示し、移行性が高いので、感染初期のうどんこ病やさび病の病勢進展を抑えることができる。また、残効性があるため、リゾクトニア病や眼紋病等の土壌病害にも有効である。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

1) 単 剤

(1) 既登録の適用

① 20%水和剤 (パッチコロン水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シコザールを含む農薬の総使用回数		
日本芝	葉腐病 (ラジパッチ)	4000 倍	0.5L/m ²	発病初期	8 回以内	散布	8 回以内		
		2000 倍	0.25~ 0.5L/m ²						
		800 倍	0.2L/m ²						
	疑似葉腐病 (春はげ症)	2000 倍	0.25L/m ²	休眠期前					
西洋芝 (パングラス)	カーブリア葉枯病 立枯病 (ゾイシアデクライン)	800 倍	0.2L/m ²	発病初期	8 回以内	散布	8 回以内		
	葉腐病 (ブラクパッチ) ダラスキット病	2000 倍	0.25L/m ²						
	炭疽病			0.5L/m ²					5 回以内
樹木類	うどんこ病		200~700 L/10a	発病前~ 発病初期					

② 20%水和剤 (サンリット水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シコザールを含む農薬の総使用回数
りんご	褐斑病 黒星病 赤星病 うどんこ病 モニリア病 斑点落葉病	2000~ 4000 倍	200~700 L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	3 回以内
なし	黒星病 赤星病 うどんこ病						
ネクタリン もも	灰星病	2000~ 4000 倍		収穫前日 まで			
小粒核果類		2000 倍					
おうとう	幼果菌核病	2000 倍	100~300 L/10a				
いちご	炭疽病	2000~ 4000 倍					
	うどんこ病						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シコザールを 含む農薬の 総使用回数
だいた	紫斑病	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回 以内	散布	2 回以内
茶	炭疽病 もち病	2000～ 4000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日 前まで	1 回		1 回
さくら	幼果菌核病	2000 倍	200～700 L/10a	展葉始期 ～展葉期	3 回 以内		3 回以内

③ 1.5%粒剤 (モンガリット粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	シコザールを 含む農薬の 総使用回数
稲	紋枯病 疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 疑似紋枯症 (灰色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 稲こうじ病 墨黒穂病	3～4 kg/10a	収穫 45 日 前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	穂枯れ (ごま葉枯病菌) 穂枯れ (すじ葉枯病菌)	4kg/10a				
こんにゃく	白絹病	4～6 kg/10a	培土時 但し、収穫 120 日前まで	3 回以内	株元散布 (散布後 土寄せ)	3 回以内
ごぼう	黒あざ病	9～18 kg/10a	は種時	1 回	播溝土壌 混和	1 回
にんにく	黒腐菌核病	18kg/10a	植付前		全面土 壌混和	6 回以内 (植付前は 1 回以内、 植付後の 株元散布は 2 回以内、 散布は 3 回 以内)
	白絹病	6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫 75 日前まで (茎 葉展開期)	2 回以内	株元 散布	
ねぎ	黒腐菌核病		4～6 kg/10a	生育期 但し、収穫 14 日前まで	3 回以内	株元 散布
	白絹病	土寄せ時 但し、収穫 14 日前まで				
	黒穂病	は種時		1 回	土壌表 面散布	
ほうれんそう	苗立枯病 (リゾクトニア菌)		は種時	1 回	播溝土壌 混和	1 回

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

⑤ 4.5%粒剤（モンガリット1キロ粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シコザールを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	1~1.3kg/10a	収穫45日前まで	2回以内	湛水散布	2回以内
	稲こうじ病	1kg/10a			無人ヘリコプターによる散布	
	墨黒穂病				湛水散布	

(2) 登録申請中の適用

- ・ 20%水和剤（サンリット水和剤）平成26年2月13日申請（しょうが）
平成26年7月9日申請（しそ）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シコザールを含む農薬の総使用回数
しょうが	白星病	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
しそ	さび病	5000倍		収穫前日まで	3回以内		3回以内

- ・ 1.5%粒剤（モンガリット粒剤）平成26年2月13日申請
（レタス、非結球レタス、キャベツ、にら）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シコザールを含む農薬の総使用回数
レタス 非結球レタス	すそ枯病	9~12kg /10a	定植時	1回	全面 土壌混和 作条 土壌混和	1回
キャベツ	株腐病	6kg/10a				
にら	白絹病					

2) 混合剤

(1) 既登録の適用

- ① シメコナゾール・マンゼブ水和剤（テーク水和剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シコザールを含む農薬の総使用回数	マンゼブを含む農薬の総使用回数
みかん	そうか病 黒点病 灰色かび病	500~600倍	200~700 L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内	4回以内
かんきつ (みかんを除く)		600倍		収穫90日前まで				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シコザールを含む農薬の総使用回数	マゼアを含む農薬の総使用回数
りんご	うどんこ病 モニリア病 すす点病 すす斑病 褐斑病 黒星病 赤星病 斑点落葉病 黒点病	600~800倍	200~700 L/10a	収穫 30 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内	3 回以内
かき	うどんこ病 落葉病 炭疽病	600 倍		収穫 45 日前まで	2 回以内		2 回以内	2 回以内
すいか	炭疽病 うどんこ病 つる枯病	600~800倍	100~300 L/10a	収穫 7 日前まで	5 回以内		5 回以内	7 回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病							5 回以内
ぶどう	べと病 黒とう病 晩腐病 うどんこ病 灰色かび病	1000 倍	200~700 L/10a	収穫 45 日前まで	2 回以内		2 回以内	2 回以内
きゅうり	べと病 うどんこ病 炭疽病 灰色かび病 褐斑病	600~800倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内		3 回以内	3 回以内
トマト	疫病 葉かび病 うどんこ病	800 倍			2 回以内		2 回以内	2 回以内
ねぎ	さび病 べと病 黒斑病 葉枯病	600 倍		収穫 14 日前まで	3 回以内		3 回以内 (は種時は 1 回以内)	3 回以内
にんにく	さび病 葉枯病 白斑葉枯病	600~800倍		収穫 7 日前まで	3 回以内		6 回以内 (植付前は 1 回以内、 植付後の株元散布は 2 回以内、 散布は 3 回以内)	5 回以内
かぼちゃ	べと病 うどんこ病 疫病			収穫 21 日前まで	2 回以内		2 回以内	2 回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

② シメコナゾール・メトミノストロピン粒剤（イモチミン粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数	メトミノストロピンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(灰色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) 稲こうじ病 墨黒穂病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	3kg/10a	収穫 45 日 前まで	1 回	散布	2 回以内	1 回

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 使用上の注意事項

1) 4.5%粒剤(モンガリット1キロ粒剤)

本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。

- ① 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
- ② 散布に当たっては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
- ③ 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整し、飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
- ④ できるだけ風の弱い時間に散布を行うこと。
- ⑤ 散布薬剤の飛散によって他の動植物等への影響を与えないよう散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- ⑥ 薬剤が水源地、飲料用水、養殖地、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意すること。
- ⑦ 使用後の機体散布装置は十分洗浄し、タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。

2) 1.5%粒剤(モンガリット粒剤)

- (1) ねぎの定植後に使用する場合は、冬季に定植する作型では生育が抑制されるおそれがあるので使用を避けること。
- (2) ねぎ及びにんにくの白絹病に使用する場合は、土寄せ前～土寄せ後に本剤を株元散布すること。

3) 20%水和剤(サンリット水和剤)

- (1) いちごの炭疽病に対して使用する場合は、育苗期から本圃定植時まで散布することが望ましい。
- (2) さくらの幼果菌核病に使用する場合は、品種・栽培条件などによって薬害を生じる恐れがあるので、使用者の責任においてあらかじめ薬害がないことを確かめてから使用すること。

4) 20%水和剤(パッチコロロン・サンリット水和剤)、シメコナゾール・マンゼブ水和剤(テーク水和剤)

- (1) 水溶性パック入りの製剤を使用する場合には、次の事項に注意すること。
 - ① 濡れた手でパックに触らないこと。
 - ② 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、出来るだけ速やかに使い切ること。
 - ③ 薬液の調製は容器内に所定量の水の3分の1程度を入れた後、必要量の内袋を開封せずにそのまま容器内に投入する。その後、よく攪拌しながら容器内に水を定量ま

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

で加える。

5) 20%水和剤(サンリット水和剤)、シメコナゾール・マンゼブ水和剤(テーク水和剤)

(1) りんごに使用する場合は、次の事項に注意すること。

- ① モニリア病に対しては、葉腐れの初発後すぐに散布すること。
- ② 斑点落葉病に対しては、落花後 20 日頃までの初期防除剤として使用すること。

(2) 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。

6) 4.5%粒剤(モンガリット1キロ粒剤)、1.5%粒剤(モンガリット粒剤)、シメコナゾール・メトミノストロピン粒剤(イモチミン粒剤)

稲に使用する場合、散布に当たっては、水深を 3cm 以上にし、散布後は少なくとも 3~4 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。なお漏水の激しい水田では使用をさけること。

7) 4.5%粒剤(モンガリット1キロ粒剤)、20%水和剤(パッチコロン・サンリット水和剤)、シメコナゾール・マンゼブ水和剤(テーク水和剤)

蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

8) シメコナゾール・マンゼブ水和剤(テーク水和剤)

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 石灰硫黄合剤、ポルドー液との混用はさけること。
- (3) ホルドー液との 7 日以内の近接散布は薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。
- (4) 極端な高温多湿条件下では、軟弱幼苗に薬害のおそれがあるので注意すること。

9) シメコナゾール・メトミノストロピン粒剤(イモチミン粒剤)

- (1) 本剤の使用により、稲の葉に褐点を生じる場合があるので、所定の使用量を厳守すること。特に、急激な温度上昇が起こる気象条件下では、葉に褐点が生じやすいので、フェーン現象等が予想される場合には使用しないこと。
- (2) 本剤を散布した水田の田面水を他作物の灌水に用いないこと。

3. 水産動植物に有害な農薬については、その旨

- 1) 20%水和剤(パッチコロン・サンリット水和剤)、4.5%粒剤(モンガリット1キロ粒剤)、1.5%粒剤(モンガリット粒剤)、この登録に係る使用方法では該当がない。

2) シメコナゾール・マンゼブ水和剤(テーク水和剤)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- (1) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖地等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
 - (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 3) シメコナゾール・メトミノストロピン粒剤(イモチミン粒剤)
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

V. 残留性及び水質汚濁性

1. 作物残留

(1) 分析法の原理と操作概要

1) シメコナゾール[®]

含水アセトニトリル(又はアセトン)で抽出後、カラムクロマトグラフィーで精製して高速液体クロマトグラフィー(UV 検出器)又は LC-MS 又は LC-MS/MS で定量した。

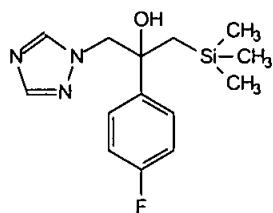
なお、一部作物のシメコナゾール[®]の分析では、精製後、酸処理によりシメコナゾール[®]を $\text{C}_{14}\text{H}_{20}\text{FN}_3\text{OSi}$ に変換し、高速液体クロマトグラフィー(UV 検出器)で定量し、シメコナゾール[®]に分子量換算した。

(2) 分析対象化合物

登録保留基準に基づく分析対象化合物は、シメコナゾールのみである。

[シメコナゾール(親化合物・[®])]

構造式：



化学名：(RS)-2-(4-フルオロフェニル)-1-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イル)-3-トリメチルシリルプロパノール

分子式： $\text{C}_{14}\text{H}_{20}\text{FN}_3\text{OSi}$

分子量：293.4

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) 残留試験結果

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シメコゾール [®]		シメコゾール [®]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所	
水 稻 (玄米) 平成9年度	粒剤 (1.5%) 4 kg/10a 湛水散布	栃木県 病害虫 防除所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	43	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	52	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	68	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	43	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	52	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	68	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		滋賀県 病害虫 防除所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	53	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	62	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			1	78	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	53	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	62	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	78	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
水 稻 (稲藁) 平成9年度	粒剤 (1.5%) 4 kg/10a 湛水散布	栃木県 病害虫 防除所	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	43	0.06	0.06	0.07	0.06
			1	52	0.09	0.08	0.07	0.06
			1	68	0.13	0.12	0.04	0.04
			2	43	0.14	0.14	0.19	0.18
			2	52	0.27	0.26	0.36	0.36
			2	68	0.12	0.12	0.16	0.16
		滋賀県 病害虫 防除所	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	53	0.31	0.30	0.25	0.24
			1	62	0.15	0.14	0.12	0.11
			1	78	0.14	0.13	0.09	0.08
			2	53	0.49	0.48	0.38	0.36
			2	62	0.29	0.28	0.27	0.26
			2	78	0.22	0.21	0.16	0.15

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		社内分析機関				
					シメダナ-M®		シメダナ-M®				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					(財)日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント				
水 稻 (玄米) 平成 15 年度	粒剤 (1.5%) 4 kg/10a 湛水散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
			2	21	0.04	0.04	0.03	0.03			
			2	28	0.04	0.04	0.04	0.04			
			2	42	0.02	0.02	0.02	0.02			
			水 稻 (稲藁) 平成 15 年度	0	—	<0.05	<0.05	<0.03	<0.03		
						2	21	3.23	3.15	3.62	3.57
						2	28	2.09	2.03	1.40	1.38
						2	42	0.74	0.73	0.73	0.70
					(財)日本食品分析センター	三共(株)農業科学研究所					
みかん (施設、無袋) (果肉) 平成 12 年度	水和剤 (20.0%) 4000 倍 500L/10a 散布	愛知県 農総試 園芸研 (蒲郡)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
			3	7	<0.02	<0.02	0.02	0.02			
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
		宮崎総農試 日植防研 宮崎試験地	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
みかん (施設、無袋) (果皮) 平成 12 年度	愛知県 農総試 園芸研 (蒲郡)	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02				
		3	7	0.22	0.22	0.30	0.29				
		3	14	0.11	0.11	0.15	0.14				
		3	21	0.07	0.07	0.08	0.08				
		宮崎総農試 日植防研 宮崎試験地	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02			
			3	7	0.17	0.17	0.14	0.14			
			3	14	0.12	0.12	0.08	0.08			
			3	21	0.08	0.08	0.08	0.08			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シモナジ-Ｍ [Ⓟ]		シモナジ-Ｍ [Ⓟ]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所	
夏みかん (無袋) (果実) 平成12年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 山口:638 熊本:700 L/10a 散布	山口県 萩柑試	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	7	0.13	0.13	0.20	0.20
			3	14	<0.02	<0.02	0.08	0.08
			3	21	<0.02	<0.02	0.06	0.06
		熊本県 農研セ 果樹研	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	7	0.05	0.05	0.07	0.06
			3	14	0.03	0.03	0.04	0.04
			3	21	0.05	0.05	0.05	0.05
ゆず (無袋) (果実) 平成12年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 和歌山:800 高知:500 L/10a 散布	和歌山県 植防	0	—			<0.02	<0.02
			3	7			0.03	0.03
			3	14			0.03	0.03
			3	21			<0.02	<0.02
		高知県 農技セ 果樹試	0	—			<0.02	<0.02
			3	7			0.23	0.22
			3	14			0.11	0.10
			3	21			0.09	0.08
メロン (施設) (果肉) 平成12年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 250L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		日植防研 宮崎試験場	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シモナゾ-M®		シモナゾ-M®	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所	
もも (無袋) (果肉) 平成10年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 福島：400 岐阜：300 L/10a 散布	福島県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	14	<0.03	<0.03	0.04	0.04
			2	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	28	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	14	0.03	0.03	0.04	0.04
			3	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	28	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
		岐阜県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	14	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	28	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	14	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	28	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
もも (無袋) (果皮) 平成10年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 福島：400 岐阜：300 L/10a 散布	福島県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	14	0.67	0.66	0.37	0.36
			2	21	0.24	0.24	0.14	0.14
			2	28	0.12	0.12	0.06	0.06
			3	14	0.60	0.59	0.33	0.33
			3	21	0.31	0.30	0.16	0.16
			3	28	0.15	0.15	0.10	0.10
		岐阜県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	14	0.30	0.30	0.26	0.25
			2	21	0.22	0.22	0.10	0.10
			2	28	<0.03	<0.03	0.05	0.05
			3	14	0.27	0.26	0.15	0.14
			3	21	0.20	0.20	0.13	0.13
			3	28	0.14	0.14	<0.03	<0.03

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					シモナゾールM [®]		シモナゾールM [®]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所		
もも (無袋) (果肉) 平成12年度	水和剤 (20.0%) 2000倍 福島:400 長野:360 L/10a 散布	福島県植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	1	0.16	0.16	0.14	0.13	
			3	7	0.11	0.11	0.10	0.10	
			3	14	0.03	0.03	0.03	0.02	
		長野県植防 須坂研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	1	0.25	0.24	0.31	0.30	
			3	7	0.16	0.16	0.18	0.16	
福島県植防		3	14	0.08	0.08	0.08	0.08		
		0	—	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05		
		3	1	3.84	3.73	3.22	3.10		
もも (無袋) (果皮) 平成12年度		水和剤 (20.0%) 2000倍 福島:400 長野:360 L/10a 散布	福島県植防	3	7	1.29	1.26	1.20	1.15
				3	14	0.42	0.41	0.40	0.39
				0	—	<0.02	<0.02	<0.05	<0.05
			長野県植防 須坂研究所	3	1	8.26	8.07	10.25	9.89
	3			7	3.56	3.50	4.47	4.29	
	3			14	1.27	1.24	1.14	1.14	
				(財)日本食品分析センター	(株)化学分析コンサルタント				
すいか (施設) (果肉) 平成15年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 石川:300 高知:150~200 L/10a 散布		石川県植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				5	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				5	8	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				5	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			日植防研 高知試験場	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				5	1	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
				5	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		5		14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シモナゾール [®]		シモナゾール [®]	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所	
りんご (無袋) (果実) 平成9年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 700L/10a 散布	福島県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	14	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	30	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	60	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	14	0.04	0.04	<0.03	<0.03
			2	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	30	0.05	0.04	<0.03	<0.03
			2	60	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			3	14	0.04	0.04	0.04	0.04
		3	21	0.04	0.04	0.03	0.03	
		3	30	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	
		3	60	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	
		石川県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	14	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	30	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	59	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	14	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			2	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
2	30		<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
2	59		<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
3	14		<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
青森県 りんご試	0	—	<0.03	<0.03	<0.02	<0.02		
	3	7	0.14	0.14	0.10	0.10		
	3	14	0.04	0.04	0.04	0.04		
	3	21	0.03	0.03	0.02	0.02		
	石川県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.02	<0.02	
		3	7	0.04	0.04	0.04	0.04	
		3	14	<0.03	<0.03	0.02	0.02	
		3	21	<0.03	<0.03	<0.02	<0.02	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)					
					公的分析機関		社内分析機関			
					シモナゾールM [®]		シモナゾールM [®]			
					最高値	平均値	平均値	最高値		
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所			
なし (無袋) (果実) 平成10年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 400L/10a 散布	福島県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
			2	1	0.20	0.20	0.09	0.09		
			2	14	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
			2	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
			2	28	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
			3	1	0.16	0.16	0.21	0.20		
			3	14	0.04	0.04	0.07	0.07		
			3	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
		3	28	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03			
		徳島県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
			2	1	0.12	0.12	0.21	0.19		
			2	14	0.03	0.03	0.07	0.07		
			2	21	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
			2	28	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03		
			3	1	0.29	0.28	0.21	0.20		
			3	14	0.06	0.06	0.07	0.07		
3	21		<0.03	<0.03	0.03	0.03				
3	28	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03					
なし (無袋) (果実) 平成15年度	水和剤 (20.0%) 2000倍 福島：400 長野：350 L/10a 散布	福島県植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02		
			3	7	0.18	0.18	0.18	0.18		
			3	14	0.12	0.12	0.15	0.14		
			3	21	0.10	0.10	0.10	0.10		
		長野県植防 南信研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02		
			3	7	0.07	0.06	0.05	0.05		
			3	14	0.06	0.06	0.04	0.04		
			3	17	0.02	0.02	<0.02	<0.02		
							(財)日本食品分析センター			(株)化学分析コンサルタント

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シモナジ-M®		シモナジ-M®	
					最高値	平均値	平均値	最高値
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所	
かき (無袋) (果実) 平成11年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 静岡:350 徳島:435 L/10a 散布	静岡県 柑試落葉 果樹分場	0	—	<0.03	<0.03	<0.02	<0.02
			4	7	0.03	0.03	0.04	0.04
			4	14	0.04	0.04	0.03	0.03
			4	21	<0.03	<0.03	0.03	0.02
		徳島県 果樹試 県北分場	0	—	<0.03	<0.03	<0.02	<0.02
			4	7	0.10	0.10	0.09	0.09
			4	14	0.08	0.08	0.09	0.08
			4	21	0.06	0.06	0.07	0.06
					(財)残留農薬研究所	JA全農 営農・技術センタ-		
うめ (無袋) (果実) 平成19年度	水和剤 (20.0%) 2000倍 400L/10a 散布	福井県植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.38	0.38	0.51	0.50
			3	3	0.21	0.20	0.13	0.12
			3	7	0.06	0.06	<0.05	<0.05
		奈良県植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.36	0.36	0.39	0.39
			3	3	0.16	0.16	0.26	0.26
			3	7	<0.05	<0.05	0.06	0.06
					(株)化学分析コンサルタント			
ネクタリン (無袋) (果実) 平成15年度	水和剤 (20.0%) 2000倍 青森:270 群馬:400 L/10a 散布	青森県植防	0	—			<0.02	<0.02
			3	1			0.39	0.38
			3	7			0.14	0.14
			3	14			0.04	0.04
		群馬県植防	0	—			<0.02	<0.02
			3	1			0.26	0.26
			3	7			0.03	0.03
			3	14			<0.02	<0.02

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					シモダザ-Ｍ [Ⓔ]		シモダザ-Ｍ [Ⓔ]		
					最高値	平均値	平均値	最高値	
					(株)化学分析コンサルタント				
すもも (無袋) (果実) 平成 17 年度	水和剤 (20.0%) 2000 倍 長野：500 和歌山：400 L/10a 散布	長野県植防 須坂研究所	0	—			<0.05	<0.05	
			3	1			<0.05	<0.05	
			3	3			<0.05	<0.05	
			3	7			<0.05	<0.05	
		和歌山県 植防	0	—			<0.05	<0.05	
			3	1			<0.05	<0.05	
			3	3			<0.05	<0.05	
			3	7			<0.05	<0.05	
あんず (露地、無袋) (果実) 平成 18 年度	水和剤 (20.0%) 2000 倍 400L/10a 散布	青森農総セ りんご試 県南	0	—			<0.05	<0.05	
			3	1			0.41	0.40	
			3	3			0.32	0.32	
			3	7			0.09	0.09	
		長野県植防 須坂研究所	0	—			<0.05	<0.05	
			3	1			0.29	0.28	
			3	3			0.22	0.22	
			3	7			0.08	0.08	
					(財)日本食品分析センター			三共(株)農業科学研究所	
							<0.05	<0.05	<0.02
おうとう (施設、無袋) (果実) 平成 13 年度	水和剤 (20.0%) 2000 倍 山形：625 長野：400 L/10a 散布	山形県園試	0	—	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02	
			3	1	1.13	1.13	0.94	0.94	
			3	3	0.86	0.86	0.70	0.70	
			3	7	0.60	0.60	0.47	0.46	
			3	14	0.30	0.30	0.28	0.27	
		長野県植防 須坂研究所	0	—	<0.05	<0.05	<0.02	<0.02	
			3	1	0.54	0.52	0.62	0.61	
			3	3	0.46	0.44	0.42	0.41	
			3	7	0.45	0.44	0.44	0.44	
			3	14	0.06	0.06	0.07	0.06	
ぶどう (施設、無袋) (果実) 平成 13 年度	水和剤 (20.0%) 4000 倍 長野：400 京都：300 L/10a 散布	長野県植防 南信研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	14	0.12	0.12	0.13	0.13	
			3	21	0.06	0.06	0.07	0.06	
			3	28	0.06	0.06	0.07	0.06	
		京都府丹後 農業研究所	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	14	<0.02	<0.02	0.02	0.02	
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シモナゾールM [®]		シモナゾールM [®]	
					最高値	平均値	平均値	最高値
					(財)日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント	
いちご (施設) (果実) 平成 16 年度	水和剤 (20.0%) 2000 倍 200L/10a 散布	群馬県植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	0.23	0.22	0.20	0.20
			3	3	0.18	0.18	0.12	0.12
			3	7	0.09	0.08	0.09	0.09
		岐阜県植防	0	—	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
			3	1	1.49	1.48	1.16	1.16
			3	3	0.99	0.98	1.09	1.07
			3	7	0.67	0.66	0.54	0.54
					(財)日本食品分析センター	三共(株)農業科学研究所		
きゅうり (施設) (果実) 平成 12 年度	水和剤 (20.0%) 4000 倍 牛久: 159~218.2 宮崎: 250 L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	1	0.05	0.05	0.06	0.06
			3	3	0.03	0.03	0.02	0.02
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			5	1	0.06	0.06	0.05	0.04
			5	3	0.02	0.02	0.04	0.04
			5	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		日植防研 宮崎試験場	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	1	0.08	0.08	0.07	0.06
			3	3	0.06	0.06	0.04	0.04
			3	7	0.03	0.02	0.02	0.02
			5	1	0.11	0.11	0.08	0.07
			5	3	0.07	0.07	0.06	0.06
			5	7	0.04	0.04	0.03	0.03

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シコゾー-M®		シコゾー-M®	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント	
トマト (施設) (果実) 平成14年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 150L/10a 散布	石川県植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	<0.01	<0.01	0.02	0.02
			3	7	0.01	0.01	0.01	0.01
			3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		三重県植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			3	1	0.03	0.03	0.03	0.03
			3	7	0.01	0.01	0.02	0.02
			3	14	0.01	0.01	0.01	0.01
					(財)残留農薬研究所	JA全農 営農・技術センター		
かぼちゃ (果実) 平成18年度	水和剤 (20.0%) 5000倍 200L/10a 散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			2	21	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			2	30	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			2	45	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
		石川県植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			2	21	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			2	30	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
			2	45	<0.01	<0.01	<0.05	<0.05
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成20年度	粒剤 (1.5%) 6Kg/10a 播溝土壌混和	岐阜県植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	43	0.02	0.02	0.01	0.01
			1	46	<0.01	<0.01	0.02	0.02
		三重県植防	1	50	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	32	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	39	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ごぼう (露地) (根部) 平成20年度	粒剤 (1.5%) 18Kg/10a 播溝土壌混和	日植防研	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	188	0.04	0.04	0.08	0.08
			1	191	0.04	0.04	0.11	0.10
		群馬県植防	1	195	0.05	0.04	0.09	0.09
			0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	148	<0.01	<0.01	0.01	0.01
			1	151	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			1	155	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シメダナ-Ｍ®		シメダナ-Ｍ®	
					最高値	平均値	最高値	平均値
キャベツ (葉球) 平成 25 年度 (GLP)	粒剤 (1.5%) 6 Kg/10a 全面土壌混和	岩手県植防	0	—			<0.01	<0.01
			1	69			<0.01	<0.01
			1	75			<0.01	<0.01
			1	81			<0.01	<0.01
		福井県植防	0	—			<0.01	<0.01
			1	68			<0.01	<0.01
			1	75			<0.01	<0.01
			1	82			<0.01	<0.01
					(財) 日本食品分析センター			
結球レタス (施設) (茎葉) 平成 24 年度 (GLP)	粒剤 (1.5%) 12Kg/10a 全面土壌混和	長野県植防 南信研究所	0	—	<0.01	<0.01		
			1	44	<0.01	<0.01		
			1	49	<0.01	<0.01		
			1	54	<0.01	<0.01		
		和歌山県植防	0	—	<0.01	<0.01		
			1	45	<0.01	<0.01		
			1	51	<0.01	<0.01		
			1	57	<0.01	<0.01		
					(株) 化学分析コンサルタント			
サラダ菜 (施設) (茎葉) 平成 24 年度	粒剤 (1.5%) 12Kg/10a 全面土壌混和	福島県植防 郡山試験地	0	—			<0.01	<0.01
			1	19			0.26	0.25
			1	26			0.20	0.20
			1	33			0.18	0.18
		福井県植防	0	—			<0.01	<0.01
			1	32			0.13	0.12
			1	39			0.05	0.04
			1	46			0.04	0.04

下線部の作物残留試験成績提出日:平成 26 年 2 月 13 日

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					シコゾ-M [®]		シコゾ-M [®]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(株)化学分析コンサルタント				
リーフレタス (施設) (茎葉) 平成 24 年度	粒剤 (1.5%) 12Kg/10a 全面土壌混和	福島県植防 郡山試験地	0	—			<0.01	<0.01	
			1	22			0.12	0.12	
			1	29			0.03	0.03	
			1	36			0.04	0.04	
		福井県植防	0	—			<0.01	<0.01	
			1	32			0.07	0.07	
			1	39			0.02	0.02	
			1	46			0.01	0.01	
					(財)日本食品分析センター	三共(株)農業科学研究所			
葉ねぎ (茎葉) 平成 12 年度	水和剤 (20.0%) 4000 倍 150L/10a 散布	滋賀県植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	3	0.03	0.03	<0.02	<0.02	
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
		日植防研 高知試験場	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	3	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	7	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
			埼玉県植防	0	—			<0.02	<0.02
				3	3			0.18	0.17
3	7				0.14	0.12			
3	14				0.05	0.05			
3	21				0.05	0.05			
愛知県植防	0	—			<0.02	<0.02			
	3	3			0.06	0.06			
	3	7			<0.02	<0.02			
	3	14			<0.02	<0.02			
	3	21			<0.02	<0.02			

下線部の作物残留試験成績提出日:平成 26 年 2 月 13 日

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シコゾー-M®		シコゾー-M®	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター		(株)化学分析コンサルタント	
葉ねぎ (茎葉) 平成15年度	粒剤 (1.5%) 6kg/10a 土寄せ時 株元処理	日植防研 高知試験場	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
根深ねぎ (茎葉) 平成15年度		日植防研	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	21	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			3	28	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所	
にんにく (鱗茎) 平成13年度	水和剤 (20.0%) 4000倍 青森:300 岩手:200 L/10a 散布	青森県農試	0	—	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			3	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			3	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			3	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
		岩手県植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			3	7	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			3	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
			3	21	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02
					(株)化学分析コンサルタント			
にんにく (鱗茎) 平成22年度	粒剤 (1.5%) 18kg/10a 全面土壌混和(1回)	青森県産技セ (黒石市)	0	—			<0.01	<0.01
			4	7			<0.01	<0.01
	水和剤 (20.0%) 600倍 青森(黒石市): 300L/10a 青森(上北郡): 250L/10a 散布(3回)	青森県産技セ (上北郡)	0	—			<0.01	<0.01
			4	7			<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シメダイン®		シメダイン®	
					最高値	平均値	最高値	平均値
にんにく (鱗茎) 平成 25 年度	粒剤 (1.5%) 18kg/10a 全面土壌混和 (1回)	香川農試 (仲多度郡)	0	—	<0.01	<0.01		
			6	7	<0.01	<0.01		
			6	14	<0.01	<0.01		
			6	20	<0.01	<0.01		
	水和剤 (20.0%) 600 倍 196L/10a 散布	香川農試 (綾歌郡)	0	—	<0.01	<0.01		
			6	7	<0.01	<0.01		
			6	14	<0.01	<0.01		
					(財) 日本食品分析センター			
にら (施設) (茎葉) 平成 24 年度 (GLP)	粒剤 (1.5%) 6 kg/10a 作条土壌混和	福島県植防 郡山試験地	0	—	<0.01	<0.01		
			1	156	<0.01	<0.01		
			1	163	<0.01	<0.01		
			1	170	<0.01	<0.01		
		日植防 茨城研究所	0	—	<0.01	<0.01		
			1	98	0.02	0.02		
			1	105	0.02	0.02		
しょうが (根茎) 平成 23 年度 (GLP)	水和剤 (20.0%) 1000 倍 茨城: 166.7L/10a 宮崎: 200L/10a 散布	日植防 茨城研究所	0	—	<0.01	<0.01		
			5	7	0.07	0.07		
			5	14	0.04	0.04		
		日植防 宮崎試験場	5	21	0.05	0.05		
			0	—	<0.01	<0.01		
			5	7	0.02	0.02		
			5	14	0.02	0.02		
5	21	0.01	0.01					

下線部の作物残留試験成績提出日:平成 26 年 2 月 13 日

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)				
					公的分析機関		社内分析機関		
					シコナゾ-M®		シコナゾ-M®		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
しそ (施設) (葉) 平成 24 年度	水和剤 (20.0%) 5000 倍 200L/10a 散布	愛知農総試	0	—	<0.01	<0.01			
			3	1	3.78	3.76			
			3	3	2.17	2.13			
			3	7	0.61	0.59			
		高知農技セ	0	—	<0.01	<0.01			
			3	1	21.2	21.0			
			3	3	13.4	13.4			
			3	7	5.61	5.58			
		しそ (施設) (葉) 平成 25 年度	高知農技セ	0	0	<0.01	<0.01		
				3	1	6.90	6.90		
3	3			3.08	3.06				
3	7			0.88	0.88				
					(財)日本食品分析センター	三共(株)農業科学研究所			
だいず (乾燥子実) 平成 12 年度	粉剤 (0.4%) 4 kg/10a 散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			2	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			2	30	0.04	0.04	0.04	0.04	
			2	60	0.04	0.04	0.04	0.04	
			4	14	0.04	0.04	0.04	0.04	
			4	30	0.08	0.08	0.08	0.08	
			4	60	0.05	0.05	0.04	0.04	
		長野県 中信農試	0	—	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			2	14	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			2	30	0.05	0.05	0.04	0.04	
			2	60	0.03	0.03	0.02	0.02	
			4	14	0.05	0.04	0.04	0.04	
			4	30	0.10	0.10	0.08	0.08	
			4	60	0.02	0.02	0.02	0.02	

下線部の作物残留試験成績提出日:平成 26 年 7 月 9 日

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シメダナ-M®		シメダナ-M®	
					最高値 (財)日本食品分析センター	平均値	最高値	平均値
だいず (乾燥子実) 平成 14 年度	水和剤 (20.0%) 1000 倍 150L/10a 散布	北海道植防	0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	30	0.04	0.04	0.04	0.04
			2	60	0.02	0.02	0.02	0.02
			4	14	0.05	0.04	0.04	0.04
			4	30	0.06	0.06	0.06	0.06
		新潟県植防	4	60	0.02	0.02	0.03	0.02
			0	—	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	14	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
			2	30	0.04	0.04	0.04	0.04
			2	60	0.03	0.02	0.02	0.02
			4	14	0.04	0.04	0.03	0.03
			4	30	0.13	0.13	0.08	0.08
			4	60	0.04	0.04	0.04	0.04
だいず (乾燥子実) 平成 16 年度	水和剤 (50.0%) 8 倍 0.8L/10a 無人ヘリコプター による散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	29	0.01	0.01	0.01	0.01
			2	59	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		石川県植防	0	—	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
			2	30	0.02	0.02	0.01	0.01
			2	60	0.01	0.01	0.01	0.01
					(財)残留農薬研究所		JA 全農 営農・技術センター	
			こんにゃく (露地) (球茎) 平成 19 年度	粒剤 (1.5%) 6 Kg/10a 株元散布	群馬県植防	0	—	<0.01
3	137	<0.01				<0.01	<0.01	<0.01
3	144	<0.01				<0.01	<0.01	<0.01
3	151	<0.01				<0.01	<0.01	<0.01
長野県植防 南信研究所	0	—			<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	3	86			0.03	0.02	0.03	0.03
	3	93			0.03	0.02	0.02	0.02
	3	100			0.02	0.02	<0.01	<0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シモナゾ-M®		シモナゾ-M®	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター		三共(株)農業科学研究所	
茶 (荒茶) 平成11年度 摘採10日前 から簡易被覆	水和剤 (20.0%) 4000倍 200L/10a 散布	三重県植防	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	7	4.58	4.54	3.70	3.64
			1	14	0.61	0.60	0.88	0.87
			1	21	0.06	0.06	0.06	0.06
			2	7	4.80	4.67	3.83	3.80
			2	14	0.54	0.53	0.45	0.44
			2	21	0.12	0.12	0.09	0.08
		福岡県農業 総合試験場 八女分場	0	—	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03
			1	7	1.42	1.39	1.03	1.02
			1	14	0.72	0.70	0.48	0.44
			1	21	0.10	0.10	0.09	0.08
			2	7	2.54	2.50	1.74	1.73
			2	14	0.91	0.90	0.75	0.68
			2	21	0.10	0.09	0.07	0.07
茶 (浸出液) 平成11年度 摘採10日前 から簡易被覆	水和剤 (20.0%) 4000倍 200L/10a 散布	三重県植防	0	—			<0.03	<0.03
			1	7			1.91	1.72
			1	14			0.29	0.28
			1	21			0.06	0.04
			2	7			2.01	1.80
			2	14			0.25	0.22
			2	21			0.09	0.08
		福岡県農業 総合試験場 八女分場	0	—			<0.03	<0.03
			1	7			0.57	0.56
			1	14			0.31	0.27
			1	21			0.05	0.05
			2	7			1.11	1.10
			2	14			0.34	0.34
			2	21			0.06	0.04

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製 場 所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)			
					公的分析機関		社内分析機関	
					シコナゾ-M®		シコナゾ-M®	
					最高値 (財)日本食品分析センター	平均値	最高値	平均値
茶 (荒茶) 平成16年度	水和剤 (20.0%) 2000倍 200L/10a 散布	三重県植防	0	—	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05
			1	7	2.5	2.5	2.45	2.42
			1	14	0.7	0.7	0.66	0.64
			1	21	<0.5	<0.5	0.14	0.14
			2	7	4.4	4.4	3.54	3.52
			2	14	1.3	1.3	1.13	1.12
			2	21	<0.5	<0.5	0.20	0.20
		福岡県農業 総合試験場 八女分場	0	—	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05
			1	7	6.0	6.0	5.61	5.38
			1	14	1.6	1.6	1.40	1.38
			1	21	<0.5	<0.5	0.10	0.10
			2	7	8.3	8.2	7.85	7.54
			2	14	2.1	2.0	1.97	1.88
			2	21	<0.5	<0.5	0.13	0.12
茶 (浸出液) 平成16年度	水和剤 (20.0%) 2000倍 200L/10a 散布	三重県植防	0	—			<0.05	<0.05
			1	7			0.95	0.93
			1	14			0.32	0.32
			1	21			0.07	0.07
			2	7			1.68	1.64
			2	14			0.59	0.58
			2	21			0.10	0.10
		福岡県農業 総合試験場 八女分場	0	—			<0.05	<0.05
			1	7			2.17	2.17
			1	14			0.63	0.62
			1	21			<0.05	<0.05
			2	7			2.58	2.54
			2	14			0.78	0.76
			2	21			0.05	0.05

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 土壌残留

(1) 分析法の原理と操作概要

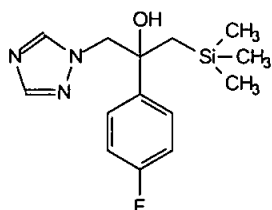
[シメコナゾール[®]]

アルカリ水溶液／アセトニトリル混合溶媒で抽出後、酢酸エチルに転溶し、カラムクロマトグラフィーで精製して高速液体クロマトグラフィー (UV 検出器) で定量する。

(2) 分析対象化合物

[シメコナゾール (親化合物・[®])]

構造式：



化学名：(RS)-2-(4-フルオロフェニル)-1-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イル)-3-トリメチルシリルプロパン-2-オール

分子式：C₁₄H₂₀FN₃OSi

分子量：293.4

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) 残留試験結果

①水田状態の容器内試験

推定半減期：

埼玉 100日、熊本 52日

埼玉 101日、熊本 52日

分析機関：三共(株)農業科学研究所

No.	試料調製 及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測 定 値 (mg/kg)				
		濃度	回数		シメコナゾール®				
					最高値	平均値			
1	埼玉農試 沖積土 (埴壤土) 水田 平成10年度	純品 0.6mg/kg	—	—	<0.01	<0.01			
			1	0	0.56	0.56			
			1	1	0.49	0.49			
			1	3	0.47	0.46			
			1	7	0.47	0.46			
			1	14	0.50	0.48			
			1	21	0.42	0.42			
			1	30	0.39	0.36			
			1	61	0.41	0.38			
			1	90	0.37	0.34			
			1	120	0.19	0.17			
			1	180	0.21	0.20			
			1	240	0.22	0.20			
			1	313	0.17	0.16			
2	熊本農研 センター 火山灰土 (軽壤土) 水田 平成10年度	純品 0.6mg/kg	—	—	<0.01	<0.01			
			1	0	0.57	0.56			
			1	1	0.50	0.50			
			1	3	0.39	0.37			
			1	7	0.35	0.35			
			1	14	0.38	0.38			
			1	21	0.32	0.32			
			1	30	0.34	0.34			
			1	61	0.27	0.25			
			1	90	0.27	0.27			
			1	120	0.27	0.26			
			1	180	0.27	0.25			
			1	240	0.24	0.23			
			1	313	0.19	0.18			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

②水田状態の圃場試験

推定半減期：

埼玉 5日、熊本 7日

埼玉 5日、熊本 7日

分析機関：三共(株)農業科学研究所

No.	試料調製 及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測 定 値 (mg/kg)				
		濃度	回数		シメコナゾール®				
					最高値	平均値			
1	埼玉農試 沖積土 (埴壌土) 水田 平成10年度	粒剤 (1.5%) 4 kg/10a 2回処理	—	—	<0.01	<0.01			
			2	0	1.29	1.28			
			2	7	0.37	0.36			
			2	14	0.21	0.20			
			2	29	0.47	0.46			
			2	62	0.30	0.28			
			2	90	0.17	0.17			
			2	120	0.15	0.15			
2	熊本農研 センター 火山灰土 (軽壤土) 水田 平成10年度	粒剤 (1.5%) 4 kg/10a 2回処理	—	—	<0.01	<0.01			
			2	0	2.20	2.18			
			2	7	1.06	1.05			
			2	14	0.76	0.74			
			2	30	0.66	0.65			
			2	60	0.56	0.53			
			2	90	0.65	0.64			
			2	120	0.26	0.26			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

③畑地状態の容器内試験

推定半減期：

青森 1日以内、福島 130日

青森 45日、福島 166日

分析機関：三共(株)農業科学研究所

No.	試料調製 及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測 定 値 (mg/kg)				
		濃度	回数		シメコナゾール®				
					最高値	平均値			
1	青森植防 火山灰土 (埴壤土) 畑地 平成10年度	純品 0.6mg/kg	—	—	<0.01	<0.01			
			1	0	0.56	0.54			
			1	1	0.17	0.16			
			1	3	0.11	0.10			
			1	7	0.05	0.04			
			1	15	0.04	0.03			
			1	24	0.05	0.05			
			1	30	0.03	0.03			
			1	60	<0.01	<0.01			
			1	90	0.03	0.02			
			1	120	0.02	0.02			
			1	184	<0.01	<0.01			
			1	240	<0.01	<0.01			
			1	360	<0.01	<0.01			
2	福島植防 洪積土 (埴壤土) 畑地 平成10年度	純品 0.6mg/kg	—	—	<0.01	<0.01			
			1	0	0.56	0.56			
			1	1	0.50	0.50			
			1	3	0.51	0.50			
			1	7	0.53	0.52			
			1	15	0.50	0.49			
			1	24	0.51	0.50			
			1	30	0.47	0.46			
			1	60	0.45	0.44			
			1	90	0.38	0.38			
			1	120	0.32	0.30			
			1	184	0.17	0.16			
			1	240	0.11	0.10			
			1	360	0.08	0.08			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

④畑地状態の圃場試験

推定半減期：

青森 26日、福島 60日

青森 80日、福島 73日

分析機関：三共(株)農業科学研究所

No.	試料調製 及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測 定 値 (mg/kg)					
		濃度	回数		シメコナゾール®					
					最高値	平均値				
1	青森植防 火山灰土 (植壤土) 畑地 平成10年度	水和剤 (20%) 4000倍 700L/10a 3回処理	—	—	<0.01	<0.01				
			3	0	0.08	0.08				
			3	7	0.10	0.10				
			3	14	0.08	0.08				
			3	33	0.05	0.05				
			3	61	0.07	0.07				
			3	91	0.02	0.02				
			3	122	<0.01	<0.01				
			3	153	0.02	0.02				
			3	182	0.02	0.02				
			3	314	0.01	0.01				
3	357	0.01	0.01 ¹⁾							
2	福島植防 洪積土 (植壤土) 畑地 平成10年度	水和剤 (20%) 4000倍 700L/10a 3回処理	—	—	<0.01	<0.01				
			3	0	0.19	0.18				
			3	7	0.29	0.28				
			3	14	0.33	0.32				
			3	30	0.24	0.24				
			3	60	0.24	0.23				
			3	90	0.09	0.08				
			3	120	0.11	0.10				
			3	150	0.12	0.12				
			3	180	0.11	0.10				
			3	240	0.12	0.11				
3	300	0.10	0.10							
3	360	0.09	0.08							

¹⁾ 0.01, <0.01

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3. 水質汚濁性

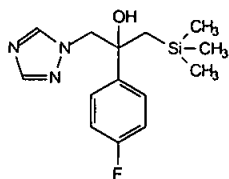
(1) 分析法の原理と操作概要

ポリスチレン樹脂カラムクロマトグラフィーで抽出し、カラムクロマトグラフィーで精製して高速液体クロマトグラフィー (UV 検出器) で定量する。

(2) 分析対象化合物

[シメコナゾール (親化合物・Ⓢ)]

構造式：



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) 残留試験結果

分析機関：(財)日本食品分析センター

試料調製 及び 採取場所	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測 定 値 (mg/L)									
				シメコナゾール®									
				最高値	平均値								
埼玉農試 灰色低地土 (埴壌土) 平成9年度	粒剤(1.5%) 4 kg/10a	—	—	<0.001	<0.001								
		1	0 ¹⁾	0.416	0.412								
		1	1	0.491	0.488								
		1	3	0.174	0.170								
		1	7	0.066	0.064								
		1	14	0.009	0.009								
		1	28	0.006	0.006								
埼玉農試 多湿黒粘土 (砂壤土) 平成9年度	粒剤(1.5%) 4 kg/10a	—	—	<0.001	<0.001								
		1	0 ¹⁾	0.339	0.334								
		1	1	0.491	0.482								
		1	3	0.206	0.206								
		1	7	0.018	0.018								
		1	14	0.006	0.006								
		1	28	0.002	0.002								

¹⁾ 処理1時間後

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

VI. 有用動植物等に及ぼす影響

1. 水産動植物に対する影響

No.	試験の種類 ・被験物質	供試生物	1群当りの 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC50 又は EC50 値 (mg/L) []内は分析値				試験機関 (報告年)	記 載 頁
						24h	48h	72h	96h		
有用 1 GLP	魚類急性毒性試験 原体	コイ	10	半止 水式	20.4~ 21.7	[10.1]	[9.08]	[9.08]	[9.08]	HLS (1999年)	53
有用 2 GLP	魚類急性毒性試験 原体	ニジマス	10	半止 水式	14.0~ 15.1	[13.2]	[13.2]	[13.2]	[12.0]		54
有用 3 GLP	魚類急性毒性試験 原体	ブルギル ザフィヤン	10		22.7~ 23.3	[14.8]	[14.8]	[14.8]	[14.8]		55
有用 4 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 原体	オミジンコ	20	止水 式	19.2~ 20.8	[24.9]	[14.0]				56
有用 5 省略	ミジンコ類繁殖試験	キチン合成阻害等昆虫成長制御作用を有する農薬以外の農薬であるため									57
有用 6 GLP	藻類生長阻害試験 原体	藻類 <i>Selenastrum capricornu- tum</i>	初期濃度 10 ⁴ cells /mL	振と う培 養法	24.3~ 25.7	EbC50 (0-72h) [6.61] EbC50 (0-120h) [4.47] ErC50 (0-72h) [9.86] ErC50 (0-120h) [11.4] NOEC (0-72, 120h) [2.37]				HLS (1999年)	58
有用 7 GLP	魚類急性毒性試験 水和剤 (50%)	コイ	10	止水 式	22.8~ 23.5	34.9	34.9	34.9	34.9	三共アグロ (株) 農業科学 研究所 (2004年)	59
有用 8 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 水和剤 (50%)	オミジンコ	20		20.0	61.9	50.8				60
有用 9 GLP	藻類生長阻害試験 水和剤 (50%)	藻類 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 約 10 ⁴ cells /mL	振と う培 養法	23.0~ 24.0	EbC50 (0-72h) 8.0 ErC50 (0-72h) 19.4 NOECb (0-72h) 1.9 NOECr (0-72h) 1.9					61
有用 10 GLP	魚類急性毒性試験 水和剤 (20%)	コイ	10	半止 水式	20.9~ 23.4	45.2	45.2	38.7	29.8	HLS (1999年)	62
有用 11	魚類急性毒性試験 水和剤 (20%)	コイ	10	止水 式	25	83.2 ppm	83.2 ppm	83.2 ppm	83.2 ppm	三共(株) 農業科学 研究所 (1998年)	63
有用 12	ミジンコ類 急性毒性試験 水和剤 (20%)	ミジンコ	20		23	>100 ppm	>100 ppm				64
有用 13 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 水和剤 (20%)	オミジンコ	20	止水 式	20.3~ 22.0	127	116			HLS (1999年)	65
有用 14 GLP	藻類生長阻害試験 水和剤 (20%)	藻類 <i>Selenastrum capricornu- tum</i>	初期濃度 10 ⁴ cells /mL	振と う培 養法	24.4~ 25.8	EbC50 (0-72h) 16.6 EbC50 (0-120h) 14.9 ErC50 (0-72h) 30.0 ErC50 (0-120h) 48.6 NOEC (0-72h) 8.47 NOEC (0-120h) 3.84				HLS (1999年)	66

オミジンコの数値は EC50 値

HLS: Huntingdon Life Sciences Ltd.

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

No.	試験の種類 ・被験物質	供試生物	1群当り の 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC50 又は EC50 値 (mg/L) []内は分析値				試験機関 (報告年)	記 載 頁
						24h	48h	72h	96h		
有用 15 GLP	魚類急性毒性試験 粒剤 (4.5%)	コイ	10	止水式	23.0	480	465	463	463	三共アグロ (株) 農業科学 研究所 (2005年)	67
有用 16 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 粒剤 (4.5%)	材ミジンコ	20		20.0	867	769				68
有用 17 GLP	藻類生長阻害試験 粒剤 (4.5%)	藻類 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 約 10 ⁴ cells /mL	振と う培 養法	23.0~ 24.5	EbC50 (0-72h) 79.4 ErC50 (0-72h) 225.0 NOECb (0-72h) 25 NOECr (0-72h) 25					69
有用 18 GLP	魚類急性毒性試験 粒剤 (1.5%)	コイ	10	半止 水式	19.8~ 23.2	>922	>922	>922	>922	HLS (1999年)	70
有用 19	魚類急性毒性試験 粒剤 (1.5%)	コイ	10	止水式	25	>1000 ppm	>1000 ppm	>1000 ppm	>1000 ppm	三共(株) 農業科学 研究所 (1998年)	71
有用 20	ミジンコ類 急性毒性試験 粒剤 (1.5%)	ミジンコ	20		23	>100 ppm	>100 ppm				72
有用 21 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 粒剤 (1.5%)	材ミジンコ	20	止水式	20.3~ 21.8	>1100	>1100			HLS (1999年)	73
有用 22 GLP	藻類生長阻害試験 粒剤 (1.5%)	藻類 <i>Selenastrum capricornu- tum</i>	初期濃度 10 ⁴ cells /mL	振と う培 養法	25.3~ 26.3	EbC50 (0-72h) 370 EbC50 (0-120h) 457 ErC50 (0-72h) 531 ErC50 (0-120h) 729 NOEC (0-72, 120h) 204					74

材ミジンコの数値は EC50 値

HLS : Huntingdon Life Sciences Ltd.

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

水産動植物への影響に関する試験

1) 原体

(1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 有用1)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール原体

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1 群各 10 尾、体長；平均 4.4cm、体重；平均 2.0g

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解し、溶解を容易にするため超音波処理後強く撹拌した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；半止水式
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；40L
- ④ 試験水槽；ガラス水槽
- ⑤ 試験水温；20.4~21.7℃
- ⑥ 照明；16 時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；空気飽和値の 80~96%
- ⑨ 試験水の pH；7.2~7.7
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素し、精製水システムを通して軟水化したもの

結果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 4.57, 7.42, 11.1, 15.4, 30.9	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	10.1 (7.42~11.1)
	48h	9.08 (7.42~11.1)
	72h	9.08 (7.42~11.1)
	96h	9.08 (7.42~11.1)
NOEC (mg/L)	4.57	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (mg/L)	7.42	

症状としては、眼球の暗色色素沈着、過呼吸、傾眠、運動協調性の喪失等が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

ニジマスを用いた急性毒性試験

(資料 有用2)

試験機関 Huntington Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999年

被験物質：シメコナゾール原体

供試生物：ニジマス (学名 *Oncorhynchus mykiss*)

1群各10尾、体長；平均5.4cm、体重；平均1.6g

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解し、溶解を容易にするため超音波処理後強く攪拌した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；半止水式
- ② 暴露期間；96時間
- ③ 試験水量；22L
- ④ 試験容器；ガラス水槽
- ⑤ 試験水温；14.0～15.1℃
- ⑥ 照明；16時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；空気飽和値の72～101%
- ⑨ 試験水のpH；7.0～7.7
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素し、精製水システムを通して軟水化したもの

結果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 1.39, 2.60, 4.05, 6.33, 11.1, 15.8	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	13.2 (11.1～15.8)
	48h	13.2 (11.1～15.8)
	72h	13.2 (11.1～15.8)
	96h	12.0 (11.1～15.8)
NOEC (mg/L)	1.39	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (mg/L)	<1.39	

症状としては、暗色色素沈着、傾眠、過呼吸、運動協調性の喪失等が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

ブルーギルサンフィッシュを用いた急性毒性試験

(資料 有用3)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール原体

供試生物：ブルーギルサンフィッシュ (学名 *Lepomis macrochirus*)

1 群各 10 尾、体長；平均 3.3cm、体重；平均 0.53g

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解し、溶解を容易にするため超音波処理後強く撹拌した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；半止水式
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；11L
- ④ 試験容器；ガラス水槽
- ⑤ 試験水温；22.7～23.3℃
- ⑥ 照明；16 時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；空気飽和値の 82～102%
- ⑨ 試験水の pH；7.5～8.0
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素し、精製水システムを通して軟水化したもの

結果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 3, 05, 4, 89, 8, 53, 12, 6, 17, 5, 28, 2	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	14.8 (12.6～17.5)
	48h	14.8 (12.6～17.5)
	72h	14.8 (12.6～17.5)
	96h	14.8 (12.6～17.5)
NOEC (mg/L)	12.6	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (mg/L)	12.6	

症状としては、28.2mg/L で傾眠、運動協調性の喪失が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

オオミジンコを用いた急性遊泳阻害試験

(資料 有用4)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール原体

供試生物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭 (生後 24 時間以内の幼体)

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解し、溶解を容易にするため超音波処理した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；48 時間
- ③ 試験水量；150mL/5 頭
- ④ 試験容器；ガラス皿
- ⑤ 試験水温；19.2~20.8℃
- ⑥ 照明；16 時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；空気飽和値の 98~100%
- ⑨ 試験水の pH；7.7~8.0
- ⑩ 希釈水；逆浸透ろ過した水

結果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 3, 5.5, 9, 15, 24, 37.3	
EC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	24.9 (15.9~37.3)
	48h	14.0 (10.2~17.5)
NOEC (mg/L)	3.55	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) ミジンコ類繁殖試験

試験未実施

(資料 有用5)

提出除外の根拠となる通知：

平成13年10月10日付13生産第3986号の4.(3)の②のA

理由：キチン合成阻害等昆虫成長制御作用を有する農薬以外の農薬であるため

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(4) 藻類生長阻害試験

(資料 有用6)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.
 [GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール原体

供試生物：藻類 (学名 *Selenastrum capricornutum*, Strain No. CCAP 278/4)

初期細胞濃度 1×10^4 cells/mL

方 法：藻用栄養培地を使用して試験液を作製し、被験物質の分散を容易にするため超音波処理を行った。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露 (培養) 方式；振とう培養法
- ② 暴露期間；120 時間
- ③ 連 数；3 連
- ④ 試験容器；250mL 円錐フラスコ
- ⑤ 試験培地の量；100mL/1 連
- ⑥ 培養温度；22.1~25.0°C
- ⑦ 照 明；連続照射 (約 7017Lux)
- ⑧ 試験水温；24.3~25.7°C
- ⑨ 試験水の pH；7.83~8.14

結 果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 0.590, 1.20, 2.37, 4.71, 9.32, 17.4
E b C50 (mg/L)	(0~72h) 6.61 (0~120h) 4.47
E r C50 (mg/L)	(0~72h) 9.86 (0~120h) 11.4
NOEC (mg/L)	(0~72h) 2.37 (0~120h) 2.37

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2) 製剤 (50%水和剤)

(1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 有用7)

試験機関 三共アグロ(株) 農業科学研究所
[GLP 対応]

報告書作成年 2004年

被験物質：シメコナゾール水和剤 (50%)

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各10尾、体長；平均4.58cm、体重；平均1.03g

方法：被験物質を希釈水に溶解して、各濃度の試験液を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；96時間
- ③ 試験水量；30L
- ④ 試験水槽；30L 容量製水槽
- ⑤ 試験水温；22.8~23.5℃
- ⑥ 照明；16時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；7.3~8.4mg/L
- ⑨ 試験水のpH；7.6~7.8
- ⑩ 希釈水；脱塩素水道水

結果：

試験濃度 [設定濃度] (mg/L)	0, 16, 22, 31, 43, 60	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	34.9 (31.9~38.4)
	48h	34.9 (31.9~38.4)
	72h	34.9 (31.9~38.4)
	96h	34.9 (31.9~38.4)
NOEC (mg/L)	16	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (mg/L)	22	

症状としては、遊泳緩慢、反転・横転、体色の黒変が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

オオミジンコを用いた急性遊泳阻害試験

(資料 有用8)

試験機関 三共アグロ(株) 農業科学研究所
[GLP 対応]

報告書作成年 2004 年

被験物質：シメコナゾール水和剤 (50%)

供試生物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭 (生後 24 時間以内の幼体)

方 法：被験物質を希釈水に溶解して、各濃度の試験液を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；48 時間
- ③ 試験水量；200mL/10 頭
- ④ 試験容器；ガラス製腰高シャーレ
- ⑤ 試験水温；20.0℃
- ⑥ 照 明；16 時間明期
- ⑦ 給 餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；7.7~8.2mg/L
- ⑨ 試験水の pH；7.7~7.9
- ⑩ 希 釈 水；脱塩素水道水

結 果：

試験濃度 (設定濃度) (mg/L)	0, 6, 12, 25, 50, 100	
E C 50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	61.9 (54.0~72.3)
	48h	50.8 (42.4~61.2)
NOEC (mg/L)	12	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) 藻類生長阻害試験

(資料 有用9)

試験機関 三共アグロ(株) 農業科学研究所
[GLP 対応]

報告書作成年 2004 年

被験物質：シメコナゾール水和剤 (50%)

供試生物：藻類 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC22662 株)

初期細胞濃度 約 1×10^4 cells/mL

方法：被験物質に OECD 培地を加え定容とし、各試験液を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露 (培養) 方式；振とう培養法 (100rpm)
- ② 暴露期間；72 時間
- ③ 連 数；3 連制
- ④ 試験容器；300mL 容が ラス製三角フラスコ (シリコ栓)
- ⑤ 試験培地の量；100mL/1 連
- ⑥ 試験水温；23.0~24.0°C
- ⑦ 照 明；連続照射 (4000~5000Lux)
- ⑧ 試験液の pH；7.8~8.2

結 果：

試験濃度 [設定濃度] (mg/L)	0, 1.9, 3.8, 7.5, 15.0, 30.0
E b C 50 (mg/L) (95%信頼限界)	(0~72h) 8.0 (7.3~8.8)
E r C 50 (mg/L) (95%信頼限界)	(0~72h) 19.4 (17.1~22.4)
NOEC (mg/L)	(面積法 0~72h) 1.9 (速度法 0~72h) 1.9

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3) 製剤 (20%水和剤)

(1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 有用10)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール水和剤 (20%)

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1 群各 10 尾、体長；平均 4.8cm、体重；平均 2.4g

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解し、溶解を容易にするため超音波処理後強く撹拌した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；半止水式
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；50L
- ④ 試験水槽；ガラス水槽
- ⑤ 試験水温；20.9~23.4℃
- ⑥ 照明；16 時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；空気飽和値の 74~94%
- ⑨ 試験水の pH；7.3~7.9
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素し、精製水システムを通して軟水化したもの

結果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 6.21, 13.8, 29.8, 68.5, 129	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	45.2 (29.8~68.5)
	48h	45.2 (29.8~68.5)
	72h	38.7 (13.8~68.5)
	96h	29.8 (13.8~68.5)
NOEC (mg/L)	6.21	
死亡例の認められなかった最高濃度 (mg/L)	13.8	

症状としては、眼球の暗色素沈着、傾眠、過呼吸、運動協調性の喪失等が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

コイを用いた急性毒性試験

(資料 有用 1 1)

試験機関 三共(株)農業科学研究所
報告書作成年 1998年

被験物質：シメコナゾール水和剤 (20%)

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各10尾、体長；平均4.3cm、体重；平均1.2g

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解して、調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；168時間
- ③ 試験水量；10L
- ④ 試験水槽；ガラス製容器
- ⑤ 試験水温；25℃
- ⑥ 希釈水；曝気井水

結果：

試験濃度 [設定濃度] (ppm)	0, 36, 50, 70, 100	
LC50 (ppm)	24h	83.2
	48h	83.2
	72h	83.2
	96h	83.2
	168h	83.2
死亡例の認められなかつた最高濃度 (ppm)	70	

症状としては、遊泳鈍及び反転・横転が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(2) ミジンコ類急性毒性試験

ミジンコを用いた急性毒性試験

(資料 有用12)

試験機関 三共(株)農業科学研究所

報告書作成年 1998年

被験物質：シメコナゾール水和剤 (20%)

供試生物：ミジンコ (学名 *Daphnia pulex*)

1群各20頭、14日齢

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解して、調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；48時間
- ③ 試験水量；200mL
- ④ 試験水槽；ガラス製容器
- ⑤ 試験水温；23℃
- ⑥ 希釈水；曝気井水

結果：

試験濃度 [設定濃度] (ppm)	0, 3, 10, 30, 100	
LC50 (ppm)	24h	>100
	48h	>100
死亡例の認められなかつた最高濃度 (ppm)	100	

症状としては、遊泳鈍が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

オオミジンコを用いた急性遊泳阻害試験

(資料 有用 1 3)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール水和剤 (20%)

供試生物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭 (生後 24 時間以内の幼体)

方 法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解し、試験液を Elendt M4 により調製した。
溶解を容易にするため超音波処理を行った。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；48 時間
- ③ 試験水量；250mL/5 頭
- ④ 試験容器；ガラスビーカー
- ⑤ 試験水温；20.3~22.0℃
- ⑥ 照 明；16 時間明期
- ⑦ 給 餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；空気飽和値の 98~102%
- ⑨ 試験水の pH；7.6~8.1
- ⑩ 希 釈 水；逆浸透ろ過した水

結 果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 15.7, 36.4, 83.6, 176, 383	
E C 50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	127 (83.6~176)
	48h	116 (83.6~176)
NOEC (mg/L)	83.6	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(4) 藻類生長阻害試験

(資料 有用14)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール水和剤 (20%)

供試生物：藻類 (学名 *Selenastrum capricornutum*, Strain No. CCAP 278/4)

初期細胞濃度 1×10^4 cells/mL

方法：藻用栄養培地を使用して試験液を作製し、被験物質の分散を容易にするため超音波処理を行った。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露 (培養) 方式；振とう培養法
- ② 暴露期間；120 時間
- ③ 連 数；3 連
- ④ 試験容器；250mL 円錐フラスコ
- ⑤ 試験培地の量；100mL/1 連
- ⑥ 培養温度；24.9~25.2°C
- ⑦ 照 明；連続照射 (約 7177Lux)
- ⑧ 試験水温；24.4~25.8°C
- ⑨ 試験水の pH；7.2~8.5

結 果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 3.84, 8.47, 19.9, 38.5, 86.1
E b C50 (mg/L)	(0~72h) 16.6 (0~120h) 14.9
E r C50 (mg/L)	(0~72h) 30.0 (0~120h) 48.6
NOEC (mg/L)	(0~72h) 8.47 (0~120h) 3.84

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

4) 製剤 (4.5%粒剤)

(1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 有用15)

試験機関 三共アグロ(株)農業科学研究所

[GLP 対応]

報告書作成年 2005 年

被験物質：シメコナゾール粒剤 (4.5%)

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1 群各 10 尾、体長；平均 5.52cm、体重；平均 1.74g

方法：被験物質を希釈水に溶解して、各濃度の試験液を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；30L
- ④ 試験水槽；30L 容量ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；23.0℃
- ⑥ 照明；16 時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；飽和溶存酸素濃度の 90.0~99.4%
- ⑨ 試験水の pH；7.5~7.9
- ⑩ 希釈水；脱塩素水道水

結果：

試験濃度 [設定濃度] (mg/L)	0, 260, 360, 510, 710, 1000	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	480 (410~544)
	48h	465 (405~517)
	72h	463 (400~517)
	96h	463 (400~517)
NOEC (mg/L)	260	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (mg/L)	360	

症状としては、遊泳緩慢、反転・横転、体色の黒変が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

オオミジンコを用いた急性遊泳阻害試験

(資料 有用16)

試験機関 三共アグロ(株)農業科学研究所
[GLP対応]

報告書作成年 2005年

被験物質：シメコナゾール粒剤 (4.5%)

供試生物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1群各20頭 (生後24時間以内の幼体)

方法：被験物質を希釈水に溶解して、各濃度の試験液を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；48時間
- ③ 試験水量；200mL/10頭
- ④ 試験容器；ガラス製腰高シャーレ
- ⑤ 試験水温；20.0℃
- ⑥ 照明；16時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；飽和溶存酸素濃度の72.3~93.2%
- ⑨ 試験水のpH；7.5~8.3
- ⑩ 希釈水；脱塩素水道水

結果：

試験濃度 (設定濃度) (mg/L)	0, 200, 300, 440, 670, 1000	
EC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	867 (766~936)
	48h	769 (672~918)
NOEC (mg/L)	200	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) 藻類生長阻害試験

(資料 有用17)

試験機関 三共アグロ(株) 農業科学研究所
[GLP 対応]

報告書作成年 2005 年

被験物質：シメコナゾール粒剤 (4.5%)

供試生物：藻類 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC 22662 株)

初期細胞濃度 約 1×10^4 cells/mL

方法：微粉末にした被験物質に OECD 培地を加え定容とし、各試験液を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露(培養)方式；振とう培養法(100rpm)
- ② 暴露期間；72時間
- ③ 連数；3連制
- ④ 試験容器；300mL 容が ラス製三角フラスコ(シリコ栓)
- ⑤ 試験培地の量；100mL/1 連
- ⑥ 試験水温；23.0~24.5℃
- ⑦ 照明；連続照射(4000~5000Lux)
- ⑧ 試験液の pH；7.6~8.4

結果：

試験濃度[設定濃度] (mg/L)	0, 25, 50, 100, 200, 400
E b C 50 (mg/L) (95%信頼限界)	(0~72h) 79.4 (73.1~86.1)
E r C 50 (mg/L) (95%信頼限界)	(0~72h) 225.0 (201.3~255.1)
NOEC (mg/L)	(面積法 0~72h) 25 (速度法 0~72h) 25

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

5) 製剤 (1.5%粒剤)

(1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 有用18)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール粒剤 (1.5%)

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各10尾、体長；平均4.8cm、体重；平均2.4g

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解し、溶解を容易にするため超音波処理後強く撹拌した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；半止水式
- ② 暴露期間；96時間
- ③ 試験水量；40L
- ④ 試験水槽；ガラス水槽
- ⑤ 試験水温；19.8~23.2℃
- ⑥ 照明；16時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；空気飽和値の75~97%
- ⑨ 試験水のpH；7.4~8.3
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素し、精製水システムを通して軟水化したもの

結果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 44.7, 95.8, 200, 430, 922	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	>922
	48h	>922
	72h	>922
	96h	>922
NOEC (mg/L)	430	
死亡例の認められなかった最高濃度 (mg/L)	922	

死亡は認められなかったが、症状としては922mg/Lで眼球又は体表面の暗色素沈着、過呼吸、運動協調性の喪失が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

コイを用いた急性毒性試験

(資料 有用19)

試験機関 三共(株)農業科学研究所

報告書作成年 1998年

被験物質：シメコナゾール粒剤 (1.5%)

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各10尾、体長；平均4.3cm、体重；平均1.2g

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解して、調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；168時間
- ③ 試験水量；10L
- ④ 試験水槽；ガラス製容器
- ⑤ 試験水温；25℃
- ⑥ 希釈水；曝気井水

結果：

試験濃度 [設定濃度] (ppm)	0, 100, 300, 1000	
LC50 (ppm)	24h	>1000
	48h	>1000
	72h	>1000
	96h	>1000
	168h	>1000
NOEC (ppm)	300	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (ppm)	300	

症状としては、遊泳鈍が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(2) ミジンコ類急性毒性試験

ミジンコを用いた急性毒性試験

(資料 有用20)

試験機関 三共(株)農業科学研究所
報告書作成年 1998年

被験物質：シメコナゾール粒剤 (1.5%)

供試生物：ミジンコ (学名 *Daphnia pulex*)

1群各20頭、14日齢

方法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解して、調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；48時間
- ③ 試験水量；200mL
- ④ 試験水槽；ガラス製容器
- ⑤ 試験水温；23℃
- ⑥ 希釈水；曝気井水

結果：

試験濃度 [設定濃度] (ppm)	0, 3, 10, 30, 100	
LC50 (ppm)	24h	>100
	48h	>100
NOEC (ppm)	3	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (ppm)	100	

症状としては、やや遊泳鈍が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

オオミジンコを用いた急性遊泳阻害試験

(資料 有用21)

試験機関 Huntingdon Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999 年

被験物質：シメコナゾール粒剤 (1.5%)

供試生物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭 (生後 24 時間以内の幼体)

方 法：被験物質を各濃度ごとに希釈水に溶解し、試験液を Elendt M4 により調製した。
溶解を容易にするため超音波処理を行った。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；止水式
- ② 暴露期間；48 時間
- ③ 試験水量；150mL/5 頭
- ④ 試験容器；ガラスビーカー
- ⑤ 試験水温；20.3~21.8℃
- ⑥ 照 明；16 時間明期
- ⑦ 給 餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；空気飽和値の 94~102%
- ⑨ 試験水の pH；7.5~8.0
- ⑩ 希 釈 水；逆浸透ろ過した水

結 果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 71.3, 129, 264, 517, 1100	
E C 50 (mg/L)	24h	>1100
	48h	>1100
NOEC (mg/L)	517	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(4) 藻類生長阻害試験

(資料 有用22)

試験機関 Huntington Life Sciences Ltd.

[GLP 対応]

報告書作成年 1999年

被験物質：シメコナゾール粒剤 (1.5%)

供試生物：藻類 (学名 *Selenastrum capricornutum*, Strain No. CCAP 278/4)

初期細胞濃度 1×10^4 cells/mL

方法：藻用栄養培地を使用して試験液を作製し、被験物質の分散を容易にするため超音波処理を行った。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露 (培養) 方式；振とう培養法
- ② 暴露期間；120 時間
- ③ 連 数；3 連
- ④ 試験容器；250mL 円錐フラスコ
- ⑤ 試験培地の量；100mL/1 連
- ⑥ 培養温度；22.1~26.6°C
- ⑦ 照 明；連続照射 (約 7177Lux)
- ⑧ 試験水温；25.3~26.3°C
- ⑨ 試験水の pH；7.6~8.5

結 果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 40.8, 90.7, 204, 442, 947
E b C50 (mg/L)	(0~72h) 370 (0~120h) 457
E r C50 (mg/L)	(0~72h) 531 (0~120h) 729
NOEC (mg/L)	(0~72h) 204 (0~120h) 204

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 水産動植物以外の有用生物に対する影響

2-1. 蚕

No.	試験の種類 ・被験物質	供試生物	1区当り の供試数	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
有用 23	人工飼料浸漬 処理試験 水和剤 (20%)	蚕 (錦秋×鐘和) 2 齢幼虫	10 2 連制	100~1000ppm 液を処理し た飼料を蛹になるまで摂 食させた。	異常なし	三共(株) (1999年)
有用 24	桑葉浸漬処理試験 水和剤 (50%) 水和剤 (20%)	蚕 (錦秋×鐘和) 4 齢	50 2 連制	50%水和剤は 12 倍、20%水 和剤は 1000 倍液を処理し た桑葉を 4 齢期間中摂食 させた。	両水和剤とも全例 が死亡し、強い影響 が認められた。	三共アグロ (株) (2005年)

2-2. ミツバチ

No.	試験の種類 ・被験物質	供試 生物	1 群当り の供試数	投与方法	投与量	LD50	試験機関 (報告年)
有用 25 GLP	急性経口毒性試験 原体 48 時間観察	働き ミツバチ	60	経口投与	100 μg/bee	>100 μg/bee	HLS (1998年)
有用 26 GLP	接触投与毒性試験 原体 48 時間観察			局所塗布		>100 μg/bee	

2-3. 天敵

No.	被験物質	供試生物	1区当り の供試数	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
有用 27	原体	イサアヒメコハチ成虫 <i>Diglyphus isaea</i>	8	ドライフィルム法 管瓶内壁を検体の 200ppm アセトン液で濡 らし、乾燥後に成虫 を入れ、接触開始 24、48 時間後に生存 数を調査した。 4 連制とした。	補正死亡率 24h 1% 48h 0% 接触毒性は認め られなかった。	三共アグロ (株) 農業科学 研究所 (2004年)
		オリアシメコハチ成虫 <i>Orius similis Zheng</i>	8		補正死亡率 24h 0% 48h 2% 接触毒性は認め られなかった。	
		ハモグアリコハチ成虫 <i>Dacnusa sibirica</i>	10		補正死亡率 24h 0% 48h 0% 接触毒性は認め られなかった。	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2-4. 鳥類

No.	試験の種類・被験物質	供試生物	1群当りの供試数	投与方法	投与量	LD50 又は LC50 及び 無影響量	観察された影響等	試験機関 (報告年)
有用 28 GLP	急性経口毒性試験 原体 14日間観察	マガモ	雌雄 各5	強制経口 投与	0, 500 mg/kg	LD50 : >500mg/kg	検体投与群の3 例に嘔吐がみら れた。	HLS (1999年)
有用 29 GLP	混餌投与毒性試験 原体 3日間観察		10	5日間 混餌投与	0, 156, 313, 625, 1250, 2500, 5000 ppm	LC50 : >5000ppm NOEC : 1250ppm	2500ppm以上の 群で軽度の体重 増加抑制がみら れた。	HLS (1998年)
有用 30 GLP	急性経口毒性試験 原体 14日間観察	コリン ウズラ	雌雄 各5	強制経口 投与	0, 395, 593, 889, 1333, 2000 mg/kg	LD50 : >2000mg/kg NOEL : 395mg/kg	2000mg/kg群で 4例が死亡し、 593mg/kg以上の 群で行動の抑制 及び不安定化が みられた。	HLS (1999年)
有用 31 GLP	混餌投与毒性試験 原体 (97.18%) 3日間観察		10	5日間 混餌投与	0, 156, 313, 625, 1250, 2500, 5000 ppm	LC50 : >5000ppm NOEC : 1250ppm	2500ppm以上の 群で体重増加抑 制がみられた。	HLS (1998年)

2-5.

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2 - 6 .

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

Ⅶ. 使用時安全上の注意、解毒法等

1. 使用時安全上の注意事項

- 1) 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。[20%水和剤(ハッチコ)、1.5%粒剤]
- 2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。[シコザール・オミストピオン粒剤]
- 3) 粉末は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。[20%水和剤(サリット)]
- 4) 粉末は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼には入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けること。[シコザール・マンベブ水和剤]
- 5) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。[20%水和剤(サリット)、4.5%粒剤、1.5%粒剤、シコザール・オミストピオン粒剤]
- 6) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。[20%水和剤(ハッチコ)]
- 7) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。[シコザール・マンベブ水和剤]
- 8) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。[シコザール・マンベブ水和剤]
- 9) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。[シコザール・マンベブ水和剤]
- 9) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。[20%水和剤]

2. 解毒法及び治療法

一般対症療法に準じる。

3. 製造時、使用時等における事故例

特になし。